

(様式第 10)

滋医大病 2-0-1 号
平成 29 年 10 月 4 日

厚生労働大臣

殿

滋賀医科大学医学部附属病院
管理者 松末 吉隆

滋賀医科大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 28 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町
氏 名	国立大学法人 滋賀医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

滋賀医科大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町 電話(077)548-2111
--

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<p>①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜</p> <p>②医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜</p>

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有	無
内科と組み合わせた診療科名等	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
①呼吸器内科 ②消化器内科 ③循環器内科 ④腎臓内科 ⑤神経内科 ⑥血液内科 7内分泌内科 8代謝内科 9感染症内科 10アレルギー疾患内科またはアレルギー科 11リウマチ科		
診療実績		
「糖尿病内分泌内科」において、「内分泌内科」及び「代謝内科」の診療を提供している。		
「血液内科」において、「感染症内科」の診療を提供している。		
「呼吸器内科」において、「アレルギー疾患内科またはアレルギー科」の診療を提供している。		
「整形外科」において、「リウマチ科」の診療を提供している。		

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載す

ること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 ①呼吸器外科 ②消化器外科 3乳腺外科 4心臓外科 5血管外科 ⑥心臓血管外科 7内分泌外科 8小児外科	
診療実績 「外科」において、「乳腺外科」、「内分泌外科」及び「小児外科」の診療を提供している。	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科 8産科 9婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科
--

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科 2矯正歯科 ③口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1リハビリテーション科 2病理診断科 3形成外科 4腫瘍内科

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
43床	床	床	床	569床	612床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	376人	283人	485.8人	看 護 補 助 者	41人	診 療 エ ッ ク ス 線 技 師	0人
歯 科 医 師	14人	14人	16.9人	理 学 療 法 士	17人	臨 床 検 査 技 師	47人
薬 剤 師	45人	0人	45人	作 業 療 法 士	4人	衛 生 検 査 技 師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	7人	そ の 他	0人
助 産 師	24人	2人	25.6人	義 肢 装 具 士	0人	あ ん 摩 マ ッ サ ー ジ 指 圧 師	0人
看 護 師	613人	61人	652.4人	臨 床 工 学 士	15人	医 療 社 会 事 業 従 事 者	8人
准 看 護 師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	そ の 他 の 技 術 員	5人
歯 科 衛 生 士	4人	0人	4人	歯 科 技 工 士	0人	事 務 職 員	187人
管 理 栄 養 士	11人	1人	11.0人	診 療 放 射 線 技 師	34人	そ の 他 の 職 員	12人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	27人	眼科専門医	9人
外科専門医	34人	耳鼻咽喉科専門医	8人
精神科専門医	5人	放射線科専門医	16人
小児科専門医	24人	脳神経外科専門医	8人
皮膚科専門医	4人	整形外科専門医	13人
泌尿器科専門医	13人	麻酔科専門医	24人
産婦人科専門医	17人	救急科専門医	10人
		合 計	212人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (松末 吉隆) 任命年月日 平成 26 年 2 月 15 日

平成 17 年 4 月 1 日から平成 26 年 2 月 14 日まで、副病院長(総括・リスクマネジメント)として、医療安全管理部長、医療安全管理委員会副委員長の経験を有する。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	500.2人	5.4人	505.6人
1日当たり平均外来患者数	839.1人	36.6人	875.7人
1日当たり平均調剤数	905.1剤		
必要医師数	105人		
必要歯科医師数	3人		
必要薬剤師数	17人		
必要(准)看護師数	286人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	507.91 m ²	耐火構造	病床数	12床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急生数	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	150.88 m ²	病床数	7床	
	[移動式の場合]	台数	7台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床積	29.78 m ²			
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	123.55 m ²	耐火構造	(主な設備) 血液ガス分析装置、自動血液凝固分析装置、自動血球分析装置、細胞解析システム、保冷库、遠心機-80℃フリーザー			
細菌検査室	95.50 m ²	耐火構造	(主な設備) 血液培養装置、抗酸菌培養装置、細菌同定装置			
病理検査室	74.75 m ²	耐火構造	(主な設備) 自動染色装置、自動封入装置、凍結薄切装置			
病理解剖室	77.88 m ²	耐火構造	(主な設備) 写真撮影装置、TPSシステム、照明器具、滅菌装置 長靴側面・底洗浄機、病理検査用流し台テーブル			
研究室	4,362 m ²	耐火構造	(主な設備) 蛍光顕微鏡、インキュベーター、PCR、安全キャビネット、遠心機			
講義室	636 m ²	耐火構造	室数	3室	収容定員	624人
図書室	1,262 m ²	耐火構造	室数	7室	蔵書数	17.5万冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

	紹介率	81.0%	逆紹介率	63.0%
算出 根拠	A: 紹介患者の数			12,953 人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			12,153 人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			2,672 人
	D: 初診の患者の数			19,284 人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
松村 由美	京都大学	○	医療に係る安全管理に関する業務に従事している	有・ 無	1
佐和 貞治	京都府立医科大学		医療に係る安全管理に関する業務に従事している	有・ 無	1
平野 哲郎	立命館大学		法学に関する専門知識に基づき教育・研究業務に従事している	有・ 無	1
西川 甫	滋賀県体育協会		医療を受ける者の立場から意見を述べることができる	有・ 無	2
山田 尚登	滋賀医科大学		大学の理事(教育・広報・渉外等担当)の立場で意見を述べる	有 ・無	3
小笠原 一誠	滋賀医科大学		大学の理事(研究・企画・評価等担当)の立場で意見を述べる	有 ・無	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有 ・無
委員の選定理由の公表の有無	有 ・無
公表の方法 病院ホームページに掲載している。	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
樹状細胞と腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	0人
免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	0人
前眼部三次元画像解析	2人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
術後のホルモン療養及びS-1内服投与の併用療法	1人
オクトレオチド皮下注射療法	0人
リツキシマブ点滴注射後におけるミコフェノール酸モフェチル経口投与	7人
多血小板血漿を用いた難治性皮膚潰瘍の治療	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	次世代シーケンサーを用いた家族性不整脈症候群の遺伝子解析	取扱患者数	251人
当該医療技術の概要(循環器内科) 既知の候補遺伝子には変異が同定されなかった家族性不整脈症候群症例において、次世代シーケンサーを用いることにより、全エクソン領域の変異を同定し、疾患の原因遺伝子の同定を試みている。			
医療技術名	リアルタイム位相マッピング装置による心房細動の可視化診断	取扱患者数	23人
当該医療技術の概要(循環器内科) 従来、心内電位波形しか記録できず治療法が未確立であった持続性心房細動に対して、本学の芦原らが発明したオンライン・リアルタイム位相マッピング装置(平成27年8月薬機承認)で心房細動の複雑な興奮動態を瞬時に映像化し、患者毎に異なる心房細動の持続メカニズムを診断することで、新たな治療戦略の確立を目指している。			
医療技術名	経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要(循環器内科) 自己心拍下にカテーテルを用いて生体弁を大動脈に留置する新しい治療。従来の外科手術で必要であった開胸や人工心肺使用が不要であるため、高齢者などのハイリスク患者への有用な治療法として期待している。			
医療技術名	高周波ホットバルーンによる発作性心房細動アブレーション	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要(循環器内科) 発作性心房細動に対する肺静脈隔離術を行うにあたり、高周波電流で過熱されたバルーンを用いる新しい術式である。通常の電極カテーテルによるカテーテルアブレーションに比べて、心房壁への接触面積が広いことから、より簡便かつ迅速な肺静脈隔離を実現できる。			
医療技術名	完全皮下植込み型除細動器(S-ICD)	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要(循環器内科) 新型の植込み型除細動器(ICD)(平成28年薬機承認、保険適応)で、従来型のような心臓内リードを必要としないため、リードの感染や断線、血管閉塞や癒着など、リードそのものによるトラブルを無くすることができる。そのため、感染リスクの高い患者、若年の患者などにも適応が広がった。京滋奈良地区で初となるS-ICD手術は当院当科で実施した。			
医療技術名	遺伝子多型診断による炎症性腸疾患の免疫調節療法の適正化	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要(消化器内科) 炎症性腸疾患に対する免疫調節療法における6MP/azathioprineの適正な用法・容量を、同薬剤の代謝経路でNUDT15やMRP-4、ITPase、TPMTの遺伝子多型を独自に設計したTacMan PCR法にて解析し、顆粒球減少などの副作用発現予測により行う。			
医療技術名	炎症性腸疾患に対する生物製剤療法の適正化	取扱患者数	100人
当該医療技術の概要(消化器内科) 炎症性腸疾患治療における生物製剤(抗TNF α 製剤)に対する二次無効を、独自に開発した同製剤に対する抗体検出法を用いて解析し、適正な生物製剤療法(増量、他剤への切り替え)を実施する。			
医療技術名	難治性Clostridium difficile関連下痢症・腸炎に対する糞便細菌叢移植	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(消化器内科) バンコマイシンやメトロニダゾールなどの抗菌剤に抵抗性で再発性のClostridium difficile腸炎に対して糞便細菌叢移植が有用であることが明らかになっている。当院でも実施可能な体制を整えている。			
医療技術名	クローン病に対する糞便腸内細菌移植の有用性に関する検討	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(消化器内科) クローン病の腸内細菌叢の異常が指摘されており、また、少数例の報告だがクローン病に糞便移植を実施し、有効性を認めたという報告がある。当院でもクローン病患者を対象に糞便移植を行いその有効性を検討する。			
医療技術名	ステロイド抵抗性小児ネフローゼ症候群を対象としたシクロスポリン+プレドニゾン併用療法とコハク酸メチルプレドニゾンナトリウム+シクロスポリン+プレドニゾン併用療法の多施設共同非盲検ランダム化比較試験	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(小児科) ステロイド抵抗性小児ネフローゼ症候群を有する小児患者を対象に、シクロスポリン+プレドニゾン併用療法を開始し無効例にコハク酸メチルプレドニゾンナトリウム+シクロスポリン+プレドニゾン併用投与を行う場合と、コハク酸メチルプレドニゾンナトリウム+シクロスポリン+プレドニゾン併用療法を開始する場合の有効性と安全性の比較検討を行い、標準治療法の決定をおこなう。			
医療技術名	初発寛解後早期に再発する小児ステロイド感受性ネフローゼ症候群患者を対象とした標準治療(再発時プレドニゾン治療)と標準治療+高用量ミゾリピン併用治療の多施設共同オープンランダム化比較試験	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要(小児科) 初発寛解後早期に再発する小児ステロイド感受性ネフローゼ症候群患者を対象としたオープンランダム化並行群間比較試験によって、標準治療(再発時プレドニゾン治療)+高用量ミゾリピン併用治療が標準治療に対して、頻回再発抑制効果に優れることを検証する。			

医療技術名	頻回再発型小児ネフローゼ症候群を対象としたタクロリムス治療とシクロスポリン治療の多施設共同非盲検ランダム化比較試験	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要(小児科) 頻回再発型小児ネフローゼ症候群を対象としたオープンランダム化並行群間比較試験によって、タクロリムス治療がシクロスポリン治療に対して無再発期間において非劣性であることを検証し、タクロリムス治療とシクロスポリン治療の有害事象を比較する。			
医療技術名	PCRによる皮膚抗酸菌感染症における抗酸菌の検出と同定	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(皮膚科) 従来のPCR法で捉えることのできない、希少な皮膚抗酸菌感染症を検出できる方法を用いて、抗酸菌の検出と同定を行う。			
医療技術名	内視鏡手術支援ロボット(ダ・ヴィンチ)を用いた腹腔鏡下結腸・直腸切除術の有用性と安全性の検討	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(消化器外科) 結腸・直腸悪性腫瘍に対する腹腔鏡下手術の手術支援機器として、内視鏡手術支援ロボット(ダ・ヴィンチ)の安全性と有効性の確認することを目的とする。ダ・ヴィンチは腹腔鏡下手術に比べてより繊細で、正確な手術操作が可能であり、患者の予後や機能温存を改善できる可能性がある。今後、先進医療や保険診療でも採用されていく可能性が高い。			
医療技術名	MR環境下肝悪性腫瘍マイクロ波凝固療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(消化器外科) 結腸・直腸悪性腫瘍に対する腹腔鏡下手術の手術支援機器として、内視鏡手術支援ロボット(ダ・ヴィンチ)の安全性と有効性の確認することを目的とする。ダ・ヴィンチは腹腔鏡下手術に比べてより繊細で、正確な手術操作が可能であり、患者の予後や機能温存を改善できる可能性がある。今後、先進医療や保険診療でも採用されていく可能性が高い。			
医療技術名	原発性乳癌の術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要(消化器外科) エストロゲン受容体が陽性であって、HER2が陰性のものに限って実施。(経過観察中の患者含む)			
医療技術名	脳機能部位近傍病変に対する脳神経外科治療に関する研究	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要(脳神経外科) 脳機能温存手術として覚醒下手術、術中画像診断などを組み合わせて手術成績を向上させる研究を行っている			
医療技術名	脳腫瘍に対する5-アミノレブリン酸(5-ALA)投与の、術中蛍光診断および腫瘍の蛍光可視化による脳腫瘍摘出率向上の評価に関する研究	取扱患者数	25人
当該医療技術の概要(脳神経外科) 脳腫瘍摘出術におけるモニタリングとして腫瘍細胞の蛍光による可視化を行い、組織別の有効度を検証している			
医療技術名	洗浄液の組成による慢性硬膜下血腫再発抑制の検討(前向き多施設研究)	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要(脳神経外科) 多施設共同研究として慢性硬膜下出血における洗浄液の種類による予後への関与を検討する研究を行っている			
医療技術名	ステント支援脳動脈瘤塞栓術の効果と安全性に関する多施設共同前向き観察研究	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要(脳神経外科) 脳動脈瘤の血管内治療におけるステント支援の有効性と安全性について前向き観察研究を多施設共同で行っている			
医療技術名	ステント支援脳動脈瘤塞栓術の効果と安全性に関する多施設共同前向き観察研究-抗血小板薬の効果と画像所見	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要(脳神経外科) 脳動脈瘤の血管内治療におけるステント支援の有効性と安全性について特に抗血小板剤の有効性について前向き観察研究を多施設共同で行っている			
医療技術名	脳梗塞再発高リスク患者を対象とした抗血小板薬併用療法の有効性及び安全性の検討CSPS.com(Cilostazol Stroke Prevention Study)	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要(脳神経外科) 脳梗塞再発リスクの高い患者において抗血小板剤を複数用いることについての有効性と安全性の評価のための多施設共同研究を行っている			

医療技術名	未破裂脳動脈瘤のデータベース作成、および、前方視的追跡調査	取扱患者数	51人
当該医療技術の概要(脳神経外科)			
未破裂脳動脈瘤に対する有効で安全な治療体系を構築するために当該患者の臨床情報のデータベースを作成し解析することを目的としている			
医療技術名	胚細胞腫の原因遺伝子の研究	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要(脳神経外科)			
胚細胞腫の組織を用いた解析を行い原因となる遺伝子の究明を行う研究である			
医療技術名	一般社団法人National Clinical Database(日本臨床データベース機構)への手術・治療情報登録における個人情報の取り扱いについて	取扱患者数	312人
当該医療技術の概要(脳神経外科)			
全国の脳神経外科手術の臨床情報登録を悉皆的に行うことで治療の標準化を図ることを目的とした研究である			
医療技術名	脳卒中急性期医療の地域格差の可視化と縮小に関する研究	取扱患者数	109人
当該医療技術の概要(脳神経外科)			
全国の脳卒中治療の臨床情報登録をDPCデータを用いて行うことで治療の標準化を図ることを目的とした研究である			
医療技術名	炎症性脱髄性病変と脳腫瘍のMRI画像についての後ろ向き研究	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要(脳神経外科)			
脳腫瘍と鑑別困難な炎症性疾患の画像上の特徴を研究するものである			
医療技術名	滋賀県地域医療再生計画(三次医療圏)による脳卒中診療連携体制整備事業による本学への滋賀脳卒中データセンター設置及び脳卒中登録事業	取扱患者数	約3000人
当該医療技術の概要(脳神経外科)			
滋賀県における脳卒中患者を悉皆的に登録することで県内の脳卒中発症数、治療成績、予後などを解析する研究である			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下広汎子宮全摘術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(母子診療科・女性診療科)			
子宮頸癌に対するロボット支援腹腔鏡下広汎子宮全摘術			
医療技術名	腎部分切除術におけるICG(インドシアニングリーン)蛍光造影法の臨床応用	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要(泌尿器科)			
腎部分切除時の動脈阻血において責任動脈を同定する手段としてICGを用いた蛍光造影法を行っている。			
医療技術名	精索静脈瘤根治術におけるICG(インドシアニングリーン)蛍光造影法の臨床応用	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要(泌尿器科)			
上記と同様にICGの蛍光発光を利用して精索静脈瘤根治術における動脈の同定に応用した。			
医療技術名	tPAを用いた血腫移動術及び血腫除去術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要(眼科)			
網膜下血腫の自然予後は極めて不良であり、早急な治療が必要である。tPAは血腫を溶解させる作用を有しているが、tPAと硝子体内ガス注入の組み合わせ、あるいはtPAを用いた黄斑下手術を行うことにより、良好な治療成績を得ている。			
医療技術名	重症未熟児網膜症に対するBevacizumab治療	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要(眼科)			
未熟児網膜症の治療には光凝固術が行われているが、重症の場合、光凝固で網膜症の病勢を止めることができず、失明に至ることも少なくない。また、全身状態が悪く、光凝固術が施行できない場合もある。これらの症例に対して失明回避のために、全身により侵襲が少ない治療法として抗VEGF薬(bevacizumab)を硝子体内に投与し、治療効果を期待する。			

医療技術名	黄斑円孔網膜剥離に対する内境界膜移動と血液の併用術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要(眼科)			
難治性の黄斑円孔網膜剥離に対して、内境界膜フラップを円孔内に挿入し、その受けに自己血液を塗布し、網膜の復位を得る			
医療技術名	voxel based morphometry(VBM)を用いた機能的脳形態評価法	取扱患者数	31人
当該医療技術の概要(ペインクリニック科)			
3D-MRIを応用し、脳内108か所の局所脳灰白質体積を直接測する、脳形態診断法である。滋賀医大で開発したソフト(VAAD)を用いて、脳の局所の灰白質体積を測定する形態学的診断法で、痛み医療では滋賀医大が日本の臨床研究をリードしている。脳内の情動処理系の部位、ドーパミン鎮痛系の部位の灰白質体積を測定している。			
医療技術名	核磁気共鳴スペクトロスコピーを用いた非侵襲的脳内神経機能測定	取扱患者数	31人
当該医療技術の概要(ペインクリニック科)			
核磁気共鳴スペクトロスコピーを用いて、前帯状回の神経指標の指標である、Nアスパラギン酸、興奮性神経機能の指標であるグルタミン酸、グリア細胞のマーカーであるミオイノシトールなどの脳代謝物質を測定することにより、慢性疼痛患者の評価への応用を試みる。核磁気共鳴スペクトロスコピーを用いた非侵襲的な脳機能評価法の医療技術開発である。			
医療技術名	難治性慢性疼痛に対する学際的痛みセンターによる治療	取扱患者数	37人
当該医療技術の概要(ペインクリニック科)			
難治性慢性疼痛患者の診療において、リハビリテーション科、理学療法士、作業療法士、臨床心理士、看護師、ペインクリニック医師、生理学者、などと定期的にカンファレンスを行い、多面的に患者評価を行い、患者にあった運動療法、認知行動療法などの治療を行う、全国19施設で学際的痛みセンターの設立をめざした厚労省の指定研究事業(慢性の痛み診療の基盤となる情報の集約とより高度な診療の為に医療システム構築に関する研究)である。			
医療技術名	下顎智歯抜歯の臨床的検討	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要(歯科口腔外科)			
当科における下顎埋伏智歯抜歯を主訴に来院する患者の多くは、他医療機関からの紹介であり、その大部分を開業歯科医院が占めている。当科において、どのような基準で術前評価を行い、抜歯しているのか、といった情報を紹介医と共有することができれば、患者説明や紹介の判断基準として有用であり、病診連携の拡大や患者が安全な下顎埋伏智歯抜歯術を受ける環境作りにもつながり、患者の利益にもなると考える。			
医療技術名	周術期患者の口腔機能管理に対する歯科衛生士の役割	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要(歯科口腔外科)			
上記の通り、周術期患者の術前後の口腔内清掃状態を確認し、歯科衛生士の役割、重要性を把握する			
医療技術名	減量手術前後の肥満・糖尿病と歯周病との関連	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要(歯科口腔外科)			
上記の通り、肥満・糖尿病患者において、減量手術前後の歯周病の状態を確認し、関連を把握する			
医療技術名	敗血症患者における気管支肺胞洗浄液の調査	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要(救急・集中治療部)			
当該医療技術の概要(救急・集中治療部) 気管支炎洗浄と血中の各種マーカーを測定することにより、血中ではわかりえない肺泡レベルでの急性肺損傷の病態を解明し、今後の肺損傷患者の治療に応用する。			
医療技術名	敗血症における重症度と右心機能の関係についての調査	取扱患者数	35人
当該医療技術の概要(救急・集中治療部)			
敗血症の病態生理における右心不全の役割を明らかにし、予後や重症度との相関について調査し、治療に応用する。			
医療技術名	重症患者におけるPlasma Filtration with Dialysis	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要(救急・集中治療部)			
重症患者において、様々な臓器不全を引き起こすchemical mediatorとなりうるサイトカインを効率よく除去することが患者の予後改善に必須である。現在使用されている急性肝不全 Plasma Filtration with Dialysis による除去効率を調査し、重症患者の治療法の拡大について検討する。			
医療技術名	薬物の治療効果・副作用を規定する遺伝子多型の解析と投与量設計	取扱患者数	503人
当該医療技術の概要(薬剤部)			
薬物の代謝(分解)に関わる酵素の遺伝子が多変異することにより、薬物の効果や副作用の発現に個人差が生じることが知られている。薬剤部では、当該薬物服用患者について、遺伝子多型の測定及び、その結果に基づき投与量設計を行っている(対象:45薬物、9遺伝子多型)。本検査は院内でのコンセンサスを取得しており、電子カルテ上よりオーダー可能となっている。			
医療技術名	成人Burkitt白血病に対する多剤併用化学療法による第II相臨床試験(JALSG Burkitt-ALL213)	取扱患者数	1
当該医療技術の概要(血液内科)			
成人の初発未治療急性リンパ性白血病(ALL)を対象として細胞表面マーカーおよびキメラ遺伝子スクリーニングによりバーキット白血病と診断して、それに対するリツキシマブを加えた多剤併用療法(JALSG Burkitt-ALL213)の安全性と有効性を評価する。			

医療技術名	急性前骨髄球性白血病に対する亜ヒ酸、GOを用いた寛解後治療 第II相臨床試験(JALSG APL212)	取扱患者数	2
当該医療技術の概要(血液内科) 16歳以上65歳未満の未治療急性前骨髄球性白血病(APL)の寛解例に対して寛解後治療として、APLに対して特異性が高く、毒性が低いと考えられるATO、GOとTamibarotene (Am80)を使用し、再発率と化学療法関連有害事象を減らすことにより、予後を向上できるか否かを検討する。			
医療技術名	研究参加施設に新たに発生する全ての成人ALL症例を対象とした5年生存率に関する前向き臨床観察研究(JALSG-ALL-CS-12)	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要(血液内科) JALSG施設において新規に診断された全ての急性リンパ性白血病(Acute Lymphoblastic Leukemia, ALL)の5年生存率、および生存に与える移植療法の影響を明らかにする。			
医療技術名	日本における骨髄腫関連疾患の予後に関する大規模多施設前向き観察研究(JSH-MM15)	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(血液内科) 新薬の登場による我が国における形質細胞腫瘍患者の日常診療における治療実態や治療成績を把握し、今後の本邦における多発性骨髄腫治療をさらに進歩させるため、日本における骨髄腫関連疾患の予後ならびに予後因子について調査することを目的として前方視的な多施設共同観察研究を行う。			
医療技術名	初発フィラデルフィア染色体陽性成人急性リンパ性白血病を対象としたダサチニブ併用化学療法および同種造血幹細胞移植の臨床第II相試験(JALSG Ph+ALL213)	取扱患者数	1
当該医療技術の概要(血液内科) 初発成人Ph+ALLを対象としたダサチニブ(dasatinib; DA)併用化学療法と同種造血幹細胞移植の有効性と安全性を評価する。			
医療技術名	成人フィラデルフィア染色体陰性precursor B細胞性急性リンパ性白血病に対する多剤併用化学療法による第II相臨床試験(JALSG Ph(-)B-ALL213)	取扱患者数	1
当該医療技術の概要(血液内科) 成人の初発未治療Philadelphia染色体(Ph)陰性precursor B細胞性急性リンパ性白血病(B-ALL)を対象として、L-asparaginase(L-ASP)およびステロイドを増量した小児プロトコール様レジメン(JALSG Ph(-)B-ALL 213)の安全性と有効性を評価するとともに、ステロイド反応性の予後に及ぼす影響を明らかにする。			
医療技術名	高リスク成人骨髄異形成症候群を対象としたアザシチジン投与方法に関する臨床第III相試験(JALSG MDS212)	取扱患者数	3
当該医療技術の概要(血液内科) 成人高リスクMDSを対象に、脱メチル化薬である5-Azacitidine(アザシチジン)の75mg/m ² 5日間連続投与(AZA-5)の有効性を検証することを目的として、標準治療である75mg/m ² 7日間連続投与に対するAZA-5の非劣性を検証する臨床第III相試験であり、患者検体の遺伝子解析結果と治療反応性との関連についても検討する。			
医療技術名	成人急性骨髄性白血病の発症・進展および治療反応性、副作用に関係する遺伝子異常の網羅的解析(JALSG AML209GWS)	取扱患者数	2
当該医療技術の概要(血液内科) 日本人AML症例におけるゲノムワイドの網羅的な分子異常解析を行い、AMLの発症、進展、治療反応性、治療薬剤に起因する副作用発症に関与する分子機構を解明する。更に、治療層別化システムに基づく個別化治療法を検証するための臨床試験の提案ならびに新たに同定された異常分子の機能解析により新たな分子標的療法の開発へと発展させる。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	3	56	ベーチェット病	32
2	筋萎縮性側索硬化症	16	57	特発性拡張型心筋症	63
3	脊髄性筋萎縮症	1	58	肥大型心筋症	9
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	1
5	進行性核上性麻痺	10	60	再生不良性貧血	24
6	パーキンソン病	97	61	自己免疫性溶血性貧血	1
7	大脳皮質基底核変性症	7	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1
8	ハンチントン病	3	63	特発性血小板減少性紫斑病	36
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
10	シャルコー・マリー・トゥース病	0	65	原発性免疫不全症候群	2
11	重症筋無力症	46	66	IgA腎症	46
12	先天性筋無力症候群	1	67	多発性嚢胞腎	21
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	16	68	黄色靱帯骨化症	7
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	16	69	後縦靱帯骨化症	33
15	封入体筋炎	1	70	広範脊柱管狭窄症	6
16	クロー・深瀬症候群	1	71	特発性大腿骨頭壊死症	51
17	多系統萎縮症	18	72	下垂体性ADH分泌異常症	6
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	25	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	4	74	下垂体性PRL分泌亢進症	10
20	副腎白質ジストロフィー	0	75	クッシング病	2
21	ミトコンドリア病	8	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	1
22	もやもや病	19	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	14
23	プリオン病	1	78	下垂体前葉機能低下症	48
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	0	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	1
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	7	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	40
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	26
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	9
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	2
34	神経線維腫症	10	89	リンパ脈管筋腫症	0
35	天疱瘡	27	90	網膜色素変性症	23
36	表皮水疱症	0	91	バッド・キアリ症候群	1
37	膿疱性乾癬(汎発型)	7	92	特発性門脈圧亢進症	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性肝硬変	32
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	4
40	高安動脈炎	13	95	自己免疫性肝炎	12
41	巨細胞性動脈炎	1	96	クローン病	180
42	結節性多発動脈炎	6	97	潰瘍性大腸炎	451
43	顕微鏡的多発血管炎	13	98	好酸球性消化管疾患	2
44	多発血管炎性肉芽腫症	5	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	6	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	3	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	バージャー病	4	102	ルビンシュタイン・テイピ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	0	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	108	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	49	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	43	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	17	107	全身型若年性特発性関節炎	0
53	シェーグレン症候群	7	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	8	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	0	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	1	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	7
113	筋ジストロフィー	3	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	2	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	0	167	マルファン症候群	0
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	1
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	1	177	有馬症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリズ症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスマンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠伸てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	1	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	1	196	ヤング・シンブソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスマッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	1	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	1

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	システロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	0	263	脳髄黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリボタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	1	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	10	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1	271	強直性脊椎炎	0
224	紫斑病性腎炎	3	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	1	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	1	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノナー・ウェーバー症候群	0
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	0	283	後天性赤芽球癆	1
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンコニ貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	2	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルグ病(全結腸型又は小腸)	0
244	メープルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膝炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	0
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシュヤー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	6

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	1	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	1	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	1	330	先天性気管狭窄症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・呼吸ケアチーム加算
・歯科外来診療環境体制加算	・後発医薬品使用体制加算2
・歯科診療特別対応連携加算	・病棟薬剤業務実施加算1
・特定機能病院入院基本料(一般病棟、7対1入院基本料)	・データ提出加算2
・特定機能病院入院基本料(精神病棟、10対1入院基本料)	・退院支援加算2
・超急性期脳卒中加算	・退院支援加算3
・妊産婦緊急搬送入院加算	・精神疾患診療体制加算
・診療録管理体制加算1	・精神科急性期医師配置加算
・医師事務作業補助体制加算1(40対1)	・特定集中治療室管理料1、小児加算
・急性期看護補助体制加算(25対1:看護補助者5割未満)	・総合周産期特定集中治療室管理料(母体・胎児集中治療室管理料)
・看護職員夜間12対1配置加算1	・総合周産期特定集中治療室管理料(新生児集中治療室管理料)
・療養環境加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・重症者等療養環境特別加算	・小児入院医療管理料2、加算
・無菌治療室管理加算1	・
・無菌治療室管理加算2	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・精神科リエゾンチーム加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1、感染防止対策地域連携加算	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・総合評価加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・CAD/CAM冠
・喘息治療管理料	・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算
・糖尿病合併症管理料	・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)(一次再建・二次再建)
・がん患者指導管理料1	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・がん患者指導管理料2	・脳腫瘍覚醒下マッピング加算
・がん患者指導管理料3	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術含む。)及び脳刺激装置交換術
・外来緩和ケア管理料	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・移植後患者指導管理料(造血管細胞移植後)	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・糖尿病透析予防指導管理料	・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
・外来放射線照射診療料	・網膜再建術
・ニコチン依存症管理料	・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術、人工中耳用材料
・がん治療連携計画策定料	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・肝炎インターフェロン治療計画料	・上顎骨形成術(骨移動を伴うものに限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴うものに限る。)(歯科)
・薬剤管理指導料	・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・医療機器安全管理料1	・乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・医療機器安全管理料2	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)(一次一次的再建・一次二次的再建及び二次再建)
・歯科治療総合医療管理料(I)及び(II)	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	・経カテーテル大動脈弁置換術
・遺伝学的検査	・経皮的な中隔心筋焼灼術
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・検体検査管理加算(IV)	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・遺伝カウンセリング加算	・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・胎児心エコー法	・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
・ヘッドアップティルト試験	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)

・長期継続頭蓋内脳波検査	・腹腔鏡下肝切除術
・脳波検査判断料1	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・光トポグラフィー	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・神経学的検査	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・補聴器適合検査	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・ロービジョン検査判断料	・膀胱水圧拡張術
・コンタクトレンズ検査料1	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・内服・点滴誘発試験	・人工尿道括約筋植込・置換術
・CT透視下気管支鏡検査加算	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・画像診断管理加算2	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・遠隔画像診断	・腹腔鏡下仙骨腫固定術
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・CT撮影及びMRI撮影	・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算1、時間外加算1、深夜加算1
・冠動脈CT撮影加算	・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術(胃瘻造設術)
・心臓MRI撮影加算	・輸血管管理料Ⅱ
・乳房MRI撮影加算	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・外来化学療法加算1	・歯周組織再生誘導手術
・無菌製剤処理料	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	・麻酔管理料(Ⅰ)
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	・麻酔管理料(Ⅱ)
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・放射線治療専任加算
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・外来放射線治療加算
・がん患者リハビリテーション料	・高エネルギー放射線治療
・リンパ浮腫複合的治療料	・1回線量増加加算
・歯科口腔リハビリテーション料2	・強度変調放射線治療(IMRT)
・児童思春期精神科専門管理加算	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・救急患者精神科継続支援料	・体外照射呼吸性移動対策加算
・認知療法・認知行動療法1	・定位放射線治療
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る)	・定位放射線治療呼吸移動対策加算
・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の休日加算1、時間外加算1、深夜加算1	・保険医療機関間の連携による病理診断

・エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	・テレパソロジーによる術中迅速病理組織標本作製
・エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)	・テレパソロジーによる術中迅速細胞診
・透析液水質確保加算1	・病理診断管理加算2
・下肢末梢動脈疾患指導管理加算	・クラウン・ブリッジ維持管理料

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・単純疱疹ウイルス感染症又は水痘帯状疱疹ウイルス感染迅速診断(リアルタイムPCR法)	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

②) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	血液カンファレンス 48回/年 血液培養ラウンド 50回/年 NSTミーティング 48回/年 病棟環境ラウンド 50回/年
剖 検 の 状 況	剖検症例数 35例 / 剖検率 18.2%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
遺伝子診断に基づく不整脈疾患群の病態解明および診断基準・重症度分類・ガイドライン作成に関する研究	堀江 稔	循環器内科	6,110,000	①補委 厚生労働科学研究費補助金
多面的な研究アプローチによる遺伝性不整脈の発症機序の解明	堀江 稔	循環器内科	5,980,000	①補委 文部科学省科学研究費補助金
指定難病制度の公平性を担保するための方法論の開発	堀江 稔	循環器内科	0	①補委 厚生労働科学研究費補助金
特発性心室細動の網羅的な遺伝子解析による突然死リスク予測と病態解明に関する研究	堀江 稔	循環器内科	3,000,000	①補委 独立行政法人日本医療研究開発機構
関西・北陸における致死性不整脈の臨床情報データベース構築	堀江 稔	循環器内科	910,000	①補委 独立行政法人日本医療研究開発機構
筋硬直性ジストロフィー治験推進のための臨床基盤整備の研究	堀江 稔	循環器内科	390,000	①補委 厚生労働科学研究費補助金
不整脈疾患を中心とした遺伝性心血管疾患の症例集積と同定遺伝子の解析、およびゲノム情報解析システムの開発	堀江 稔	循環器内科	5,000,000	①補委 独立行政法人日本医療研究開発機構
乳幼児突然死症候群(SIDS)および乳幼児突発性危急事態(ALTE)の病態解明等と死亡数減少のための研究	堀江 稔	循環器内科	0	①補委 厚生労働科学研究費補助金
慢性心房細動アブレーションの新機軸提案に向けた臨床・インシリコ融合研究	芦原 貴司	循環器内科	1,690,000	①補委 文部科学省科学研究費補助金
遺伝性致死性不整脈におけるトリガー発生源の解明とin silico予測	芦原 貴司	循環器内科	260,000	①補委 文部科学省科学研究費補助金
バーチャル心臓とベクトル心電図の4次元構成的手法による不整脈の発生部位同定	芦原 貴司	循環器内科	260,000	①補委 文部科学省科学研究費補助金
3次元房室結節モデルによる心拍制御機構解明と心房細動治療戦略のための医工連携研究	芦原 貴司	循環器内科	390,000	①補委 文部科学省科学研究費補助金
ラマン散乱光分析とインピーダンス測定を組み合わせた新しい組織診断技術の開発	芦原 貴司	循環器内科	520,000	①補委 文部科学省科学研究費補助金
ヒトiPS分化細胞技術を活用した医薬品の次世代毒性・安全性評価試験系の開発と国際標準化に関する研究	芦原 貴司	循環器内科	1,350,000	①補委 独立行政法人日本医療研究開発機構
心房細動維持機構の可視化と計算科学に基づく新たなアブレーション治療戦略の構築	芦原 貴司	循環器内科	1,560,000	①補委 文部科学省科学研究費補助金
薬物誘発性不整脈に関する機能解析および発症予測へ向けた統合的評価法の構築	芦原 貴司	循環器内科	195,000	①補委 文部科学省科学研究費補助金
ローター・アブレーションによる心房細動停止機序解明と個別化治療の確立	芦原 貴司	循環器内科	65,000	①補委 文部科学省科学研究費補助金
医工連携による心室細動の発現メカニズムの解明と新たな心臓突然死の予知指標の開発	芦原 貴司	循環器内科	260,000	①補委 文部科学省科学研究費補助金
ヒトiPS細胞由来心筋細胞株を成人心筋に橋渡しするためのインシリコツールの開発	芦原 貴司	循環器内科	1,200,000	①補委 文部科学省科学研究費補助金
心筋Naチャンネル(Nav1.8)異常を伴う遺伝性心臓突然死症候群のメカニズム解明	福山 恵	循環器内科	1,560,000	①補委 文部科学省科学研究費補助金
カテコラミン誘発多形性心室頻拍患者より検出した新規TRPM4遺伝子異常の検討	服部 哲久	循環器内科	2,340,000	①補委 文部科学省科学研究費補助金

計 21

サルコペニアを標的とした心臓悪液質および誤嚥性肺炎の病態解明と栄養療法の確立	山本 孝	循環器内科	780,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
カテコラミン感受性多型性心室頻拍の効率的な診断・治療法の確立	大野聖子	循環器内科	1,690,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
小児期心筋症の心電図学的抽出基準、心臓超音波学的診断基準の作成と遺伝学的検査を反映した診療ガイドライン作成に関する研究	大野聖子	循環器内科	750,000	補委	厚生労働省科学研究費補助金
遺伝性徐脈性難病 (Kir3.1/3.4 channelopathy) に対するコンパニオン診断の確立および心臓アセチルコリン感受性カリウムチャネル選択的阻害薬による新規治療法開発	大野聖子	循環器内科	2,071,440	補委	独立行政法人日本医療研究開発機構
炎症性腸疾患の個別化治療を目指した全ヒト型抗体製剤の薬物動態解析	安藤 朗	消化器内科	1,950,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
一般住民において腸内細菌叢が潜在性動脈硬化の進展におよぼす影響	安藤 朗	消化器内科	260,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
高磁場MRIを用いた腸管ぜん動運動の定量評価：自動解析と臨床応用の	安藤 朗	消化器内科	130,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究	安藤 朗	消化器内科	500,000	補委	厚生労働省科学研究費補助金
Dectin-1を介した選択的Fox11制御に基づく腸管再生の基礎的検討	馬場 重樹	消化器内科	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
炎症性腸疾患における制御性B細胞 (Breg) の臨床応用を目指した基礎的検討	西田 淳史	消化器内科	1,560,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
ストレス・食事成分と喫煙が腸内細菌叢と消化管機能に及ぼす影響の解析	安藤 朗	消化器内科	2,000,000	補委	公益財団法人喫煙科学研究財団
脂肪酸代謝酵素SCD1に着目した炎症性腸疾患の病態解明並びに新規治療	稲富 理	消化器内科	2,210,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
造血細胞の運命を決定するエンハンサーの道程とその制御機構の解明	河原 真大	血液内科	1,690,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
HIV感染者等保健福祉相談事業	安藤 朗	血液内科	750,000	補委	エイズ予防財団
胃癌易罹患性関連遺伝子PSCAの発癌機構の解明とピロリ菌病原因子の相互作用の検討	杉本 光繁	光学医療診療部	1,430,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
ピロリ菌除菌後健康者の中の胃がん高危険度群の高精度捕捉の前向き臨床研究 (症例集積と追跡)	杉本 光繁	光学医療診療部	1,280,000	補委	国立がん研究センター研究所
Dectin-1を介した選択的IL-17F制御に基づく炎症性腸疾患の病態解明	伴 宏充	光学医療診療部	520,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
オートファジーを標的とした糖尿病ならびに合併症の包括的病態解析	前川 聡	糖尿病内分泌内科	2,400,000	補委	文部科学省科学研究費
慢性腎臓病の進展にかかわる新規NAD代謝酵素の同定ならびに機能解析	荒木久澄	腎臓内科	800,000	補委	文部科学省科学研究費
骨格筋におけるO-GlcNAc修飾の糖代謝に与える影響	森野勝太郎	糖尿病内分泌内科	1,400,000	補委	文部科学省科学研究費
新規糖尿病血管合併症バイオマーカーとしての尿中NAD代謝産物の臨床的有用性の検証	荒木信一	腎臓内科	1,100,000	補委	文部科学省科学研究費
膵β細胞における食餌誘導性O-結合型糖修飾調節異常と膵β細胞機能不全との関係	関根 理	糖尿病内分泌内科	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費
飢餓応答に学ぶ腎栄養代謝学の確立 -新規腎臓病治療戦略の開発を目指して-	久米真司	腎臓内科	2,500,000	補委	文部科学省科学研究費
新規沈着腎症の同定および病態・治療標的の解明	武田尚子	腎臓内科	900,000	補委	文部科学省科学研究費

糸球体上皮細胞のリソゾームを標的とした糖尿病性腎症の新規病態解明	安田真子	腎臓内科	1,200,000	補委	文部科学省科学研究費
褐色脂肪組織におけるO-GlcNAc修飾によるUCP1発現調節機構の解明	卯木 智	糖尿病内分泌内科	1,800,000	補委	文部科学省科学研究費
メボリックシンドローム関連疾患の個別化～(再委託)	前川 聡	糖尿病内分泌内科	1,153,845	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
詳細な食事記録を含む大規模経時データと～	前川 聡	糖尿病内分泌内科	184,616	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
遺伝素因と環境因子による発癌病態の解明と創薬開発	醍醐弥太郎	腫瘍内科	1,300,000	補委	文部省科学研究費補助金
難治がんの克服に向けた高感度病態診断法の開発と実用化	醍醐弥太郎	腫瘍内科	5,200,000	補委	文部省科学研究費補助金
がん間質での免疫応答に着目した非小細胞肺癌に対する新規がん免疫治療の開発	寺本 晃治	腫瘍内科	1,560,000	補委	文部省科学研究費補助金
血清高感度肺がんバイオマーカーの同定と新規治療標的分子の臨床応用	高野 淳	腫瘍内科	1,820,000	補委	文部省科学研究費補助金
ゲノム網羅的解析情報を基盤とするオーダーメイドがん医療実現のための開発研究	醍醐 弥太郎	腫瘍内科	4,000,000	補委	日本医療研究開発機構
アディポネクチン動態からみた膵癌発癌機序の解明	谷 眞至	消化器外科	520,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
眼球運動解析を取り入れた新規の外科手術手技教育ツールの開発	塩見 尚礼	消化器外科	780,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
癌抗原ペプチド、T細胞刺激と免疫抑制性細胞制御による癌特異的CTL誘導と細胞療法	三宅 亨	消化器外科	1,170,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
エンドトキシンを軸とした潰瘍性大腸炎の新規治療の検討	清水 智治	消化器外科	1,950,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
Gd-DTPA-蛍光色素内包高分子ミセルによるMR蛍光イメージによる治療法開発	貝田 佐知子	消化器外科	1,820,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
新しい敗血症診断システムの開発	北村 直美	救急・集中治療部 (消化器外科兼務)	1,560,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
がん手術がもたらす腹腔内遊離癌細胞の癌転移能獲得機序の解明とその治療法の開発	村田 聡	腫瘍センター (消化器外科兼務)	1,690,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
糖尿病性皮膚潰瘍の発生予防-皮膚バリア機能破綻機序の解明と新規治療法の開発	岡野 純子	形成外科	1,170,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
腎不全患者の冠動脈バイパス血管内皮機能障害におかるメチルアルギニン誘導体の関与	木下 武	心臓血管外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
高分解能放射光造影CTによる肺3次元ミクロ病態の解明	花岡 淳	呼吸器外科	130,000	補委	科学研究費助成事業科学研究費補助金
がん間質細胞の骨髄からの導引阻害を組み込んだ肺がん免疫治療法の開発	大塩 恭彦	呼吸器外科	1,300,000	補委	科学研究費助成事業科学研究費補助金
肺がん細胞とがん間質繊維芽細胞の相互作用におけるGalectin-3の機能解析	片岡 瑛子	呼吸器外科	1,560,000	補委	科学研究費助成事業科学研究費補助金
超音波刺激法によるscaffold-free再生軟骨作成と再生医療	松末 吉隆	整形外科	1,170,000	補委	日本学術振興会
Pleiotrophinによる力学的骨形態形成の機序解明	今井 晋二	整形外科	1,170,000	補委	日本学術振興会
運動の生活カルチャー化により活力ある未来をつくるアクティブ・フォー・オール拠点	今井 晋二	整形外科	1,300,000	補委	国立研究開発法人科学技術振興機構

脊柱靱帯骨化症に関する調査研究	森 幹士	整形外科	300,000	補委	厚生労働科学研究費補助金
脊柱靱帯骨化症の骨化抑制に向けたmicroRNA標的核酸医療の開発	彌山 峰史	整形外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
細胞膜イオンチャネルを介した軟骨細胞レベルからの変形性関節症治療戦略の構築	熊谷 康佑	整形外科	650,000	補委	日本学術振興会
脳動脈瘤の細胞分子イメージング法の確立と非外科的治療法開発	野崎 和彦	脳神経外科	5,330,000	補委	日本学術振興会 科学研究費基盤研究(B)
定位放射線治療の成績に及ぼす因子解析	野崎 和彦	脳神経外科	1,000,000	補委	日本学術振興会 外国人研究者招へい事業
慢性子宮内膜炎の病態解明による子宮内膜の胚受容能改善に関する研究	木村 文則	産科学婦人科学講座	4,550,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
Targeted delivery of photosensitizers to uterine cervical cancer using iron oxide nanoparticles as a vehicle for effective photodynamic therapy	天野 創	女性診療科	3,900,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
SPACA1の胚発生に与える影響の解析とそれを用いた難治性不妊症の治療法の開発	岸田 和美	母子・女性診療科	3,900,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
がん患者の妊孕性温存のための相談支援普及啓発に関する研究	木村 文則	産科学婦人科学講座	880,000	補委	滋賀県
前立腺癌特異的組織標的ペプチドによる前立腺癌新規治療法の開発	河内 明宏	泌尿器科	1,170,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
膀胱癌に対するBCG膀胱療法における制御性T細胞の意義と治療応用	成田 充弘	泌尿器科	1,430,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
羊膜を用いた尿路上皮粘膜を持ち収縮および弛緩を行う膀胱の再生:イヌを用いた研究	上仁 数義	泌尿器科	1,690,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
GGCTを標的とした低分子阻害物質による泌尿器癌治療の開発	影山 進	泌尿器科	1,950,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
癌関連タンパク質GGCTを標的とした前立腺癌治療の検討	花田 英紀	泌尿器科	1,430,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
ヒト及びカニクイザル多能性幹細胞を用いた腎尿路再生の研究	小林 憲市	泌尿器科	910,000	補委	文部科学省科学研究費補助金
網膜剥離に対するタンポナーデ不要の硝子体手術の開発	大路正人	眼科	1,690,000	補委	文部科学省科学研究費
先天色覚異常の脳内表像に関する研究	村木早苗	眼科	520,000	補委	文部科学省科学研究費
Akitaマウス(KK/Ta-Akita)を用いた重症糖尿病網膜症モデルの作成	一山悠介	眼科	650,000	補委	文部科学省科学研究費
麻酔薬の一過性受容器電位(TRPC)チャネル抑制効果と心保護について	北川 裕利	麻酔学講座	1,300	補委	科学研究費
敗血症性脳症の発症メカニズム解明と麻酔薬の治療応用に関する研究	高橋 完	麻酔学講座	1,430	補委	科学研究費
光学異性ブピバカインのチャネル結合と開閉動態の解明-局麻中毒治療の新戦略-	瀬戸 倫義	麻酔科	1,040	補委	科学研究費
吸入麻酔薬の心筋保護効果に基づいた新規心筋保護法の開発	小嶋 亜希子	麻酔学講座	1,690	補委	科学研究費
VBMを用いた脳内灰白質密度測定による痛みの脳機能画像評価法の確立	福井 聖	ペインクリニック科	1,300	補委	科学研究費
慢性痛の自己治療への準備性に対する動機づけ面接の効果と作用機序に関する研究	安達 友紀	ペインクリニック科	1,560	補委	科学研究費

高分解放射線光造影CTによる肺3次元ミクロ病態の解明	村田 喜代史	放射線科	100,000	補委	日本学術復興会
動脈硬化病変の治療効果のMR画像と病理像の対比:WHHLウサギを用いた研究	新田 哲久	放射線科	2,730,000	補委	日本学術復興会
原発性アルドステロン症の新たな治療法の開発:静脈塞栓術による副腎梗塞法の基礎研究	大田 信一	放射線科	390,000	補委	日本学術復興会
ボツリヌス毒素を用いた四肢末梢動脈硬化病変血流量改善の試み	園田 明永	放射線科	130,000	補委	日本学術復興会
ラットの頭部骨膜欠損モデルに対しフィブリン糊とゼラチンスポンジにより被覆した創部治癒効果の比較	越沼伸也	歯科口腔外科	30,000	補委	第33回滋賀医科大学シンポジウム 審査員特別
後縦韧带骨化症の病態解明・治療法開発に関する研究	茶野 徳宏	医学科・臨床検査医学講座	1,800,000	補委	厚生労働科学研究費補助金
新規がん分子標的の同定と創薬	茶野 徳宏	医学科・臨床検査医学講座	600,000	補委	山田整形外科病院 奨学寄付金
p62/SQSTM1異常と臨床適用	岡部 英俊	医学科・臨床検査医学講座	1,430,000	補委	科学研究費補助金 基盤研究C
超高速ゲノム解読に基づくマウス生殖細胞誘発変異検出と微量変異原リスク評価法の確立	茶野 徳宏 (分担)	医学科・臨床検査医学講座	100,000	補委	科学研究費補助金 基盤研究A
消化器神経内分泌がんに対する標準治療の確立に関する研究	九嶋 亮治 (分担)	医学科・臨床検査医学講座	500,000	補委	厚生労働科学研究費補助金
胃癌に関する基礎的研究活動	九嶋 亮治	医学科・臨床検査医学講座	500,000	補委	中外製薬株式会社 [研究活動への支援(奨学)
多臓器不全における骨髄由来細胞の役割の解明	田畑 貴久	救急・集中治療部	1,170,000	補委	科学研究費補助金
部分肝への遺伝子治療による膵臓再生の試み	藤野 和典	救急・集中治療部	1,170,000	補委	科学研究費補助金
薬物動態学的アプローチに基づく経口調節剤ウマチ分子標的薬の個別化投与設計	平 大樹	薬剤部	1,300,000	補委	日本学術振興会 科学研究費
全リン脂質網羅的酵素蛍光定量法による疾患メカニズム解明とバイオマーカー探索	森田 真也	薬剤部	5,850,000	補委	日本学術振興会 科学研究費
カイロミクロン形成制御による脂質および脂溶性薬物の小腸吸収コントロール	森田 真也	薬剤部	1,430,000	補委	日本学術振興会 科学研究費
				補委	

計 16

(注)1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

合計 109 件
153,868,221 円

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名	論文種別
1	Ichikawa M, et al.	循環器内科	Multigenerational inheritance of long QT syndrome type 2 in a Japanese family.	Internal Med. 55: 259-262. 2016	Case report
2	Wada Y, et al.	循環器内科	Practical Applicability of Landiolol, an Ultra-short-acting β 1-selective Blocker, for Rapid Atrial and Ventricular Tachyarrhythmias with Left Ventricular Dysfunction.	Journal of Arrhythmia. 82-88. 2016	Original Article
3	Itoh H, et al.	循環器内科	The Genetics Underlying Acquired Long QT Syndrome. Impact for genetic screening.	European Heart Journal . 37: 1456-1464. 2016	Original Article
4	Fukuyama M, et al	循環器内科	Novel SCN10A variants associated with Brugada syndrome.	Europace 18: 905-911. 2016.	Original Article
5	Horie M	循環器内科	Molecular genetics have opened a new era for arrhythmia research, but also Pandora's box?	Journal of Arrhythmia 32: 313-314. 2016	Others
6	Ohno S.	循環器内科	The genetic background of arrhythmogenic right ventricular cardiomyopathy.	Journal of Arrhythmia 32: 398-403. 2016	Review
7	Fujii Y, et al.	循環器内科	A type 2 ryanodine receptor variant associated with reduced Ca ²⁺ release and short-coupled torsade de pointe ventricular	Heart Rhythm 14: 98-107 2016	Original Article
8	Hisamatsu T, et al	循環器内科	: Smoking, Smoking Cessation, and Measures of Subclinical Atherosclerosis in Multiple Vascular Beds in Japanese Men.	JAHA 5(9). 2016	Original Article
9	Ichikawa M, et al.	循環器内科	Phenotypic Variability of ANK2 Mutations in Patients With Inherited Primary Arrhythmia Syndromes.	Circulation Journal. 80: 2435- 2442. 2016	Original Article
10	Itoh H, et al.	循環器内科	Asymmetry of parental origin in Long QT syndrome: preferential maternal transmission of KCNQ1 variants linked to channel	European Journal of Human Genetics. 24: 1160-1166. 2016	Original Article
11	Hayashi H, et al.	循環器内科	The relationship between skeletal muscle and ventilatory response to exercise in myocardial infarction.	IJC Metabolic and Endocrine 12: 14-18 2016	Original Article
12	Wu J, et al.	循環器内科	Molecular pathogenesis of long QT syndrome type 1.	Journal of Arrhythmia 32: 381-388. 2016	Review
13	Hayashi H, et al.	循環器内科	Association between Progressive Intraventricular Conduction Disturbance and Cardiovascular Events.	PLOS ONE 12: 14-18. 2016	Original Article
14	Nakagawa H,et al.	呼吸器内科	Quantitative CT analysis of honeycombing area in idiopathic pulmonary fibrosis: Correlations with pulmonary function tests.	European Journal of Radiology. 85(1): 125-130.2016.	Original Article
15	Higami Y,et al.	呼吸器内科	Increased Epicardial Adipose Tissue Is Associated with the Airway Dominant Phenotype of Chronic Obstructive Pulmonary	PLoS ONE. 11(2):e0148794. doi:10.1371/journal.pone.0148794.2016.	Original Article
16	Fukunaga K,et al.	呼吸器内科	Involvement of Ca ²⁺ Signaling in the Synergistic Effects between Muscarinic Receptor Antagonists and β 2-Adrenoceptor Agonists in Airway Smooth Muscle.	International Journal of Molecular Sciences. 17(9): 1590. 2016.	Original Article
17	B15:B22orita Y, et	消化器内科	Prediction of clinical and endoscopic responses to anti-tumor necrosis factor- α antibodies in ulcerative colitis.	Scandinavian Journal of Gastroenterology 51(8); 934-941, 2016	Original Article

18	Sugimoto M, et al.	光学医療診療部	Four times daily Dosing of Rabeprazole with Sifaxloxacillin, High-Dose Amoxicillin, or Both for Metronidazole-Resistant Infection with <i>Helicobacter pylori</i> in Japan.	Helicobacter 22:e12319, 2016	Original Article
19	Andoh A, et al.	消化器内科	Comparison of the gut microbial community between obese and lean peoples using 16S gene sequencing in a Japanese population.	Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition 59(1); 65-70, 2016	Original Article
20	Andoh A	消化器内科	Physiological Role of Gut Microbiota for Maintaining Human	Digestion 93(3); 176-181, 2016	Review
21	Kanda T, et al.	消化器内科	<i>Enterococcus durans</i> TN-3 Induces Regulatory T Cells and Suppresses the Development of Dextran Sulfate Sodium (DSS)-Induced Experimental Colitis.	Plos One 11; e0159705, 2016	Original Article
22	Morita Y, et al.	消化器内科	Association between serum adalimumab concentrations and endoscopic disease activity in patients with Crohn's disease.	Journal of Gastroenterology and Hepatology 31(11); 1831-1836, 2016	Original Article
23	Murata M, et al.	消化器内科	Efficacy of additional treatment with azathioprine in a patient with prednisolone-dependent gastric sarcoidosis.	World Journal of Gastroenterology 22(47); 10471-10476, 2016	Case report
24	Asada A, et al.	消化器・血液内科	The effect of CYP3A5 genetic polymorphisms on adverse events in patients with ulcerative colitis treated with tacrolimus.	Digestive and Liver Disease 49(1); 24-28, 2017	Original Article
25	Sugimoto M, et al.	光学医療診療部	Efficacy of the Kyoto Classification of Gastritis in Identifying Patients at High Risk for Gastric Cancer.	Internal Medicine 56(6); 579-586, 2017	Original Article
26	Furuya A et al.	血液内科	Central nervous system involvement of acute promyelocytic leukemia, three case reports.	Clin Case Rep. 5(5); 645-653, 2017 (Published online 2017 Mar 29)	Case report
27	Iwasa M et al.	血液内科	Bortezomib interferes with adhesion of B cell precursor acute lymphoblastic leukemia cells through SPARC up-regulation in human bone marrow mesenchymal stromal/stem cells.	Int J Hematol. 105(5); 587-597, 2017 (Epub 2017 Jan 2)	Original Article
28	Takagi A et al.	腎臓内科	Emerging role of mammalian autophagy in ketogenesis to overcome starvation.	Autophagy 12(4); 709-710, 2016	Others
29	Yamamoto H, et al.	糖尿病内分泌内科	Amla Enhances Mitochondrial Spare Respiratory Capacity by Increasing Mitochondrial Biogenesis and Antioxidant Systems in a Murine Skeletal Muscle Cell Line.	Oxid Med Cell Longev. 2016	Original Article
30	Maegawa H et al.	糖尿病内分泌内科	Baseline characteristics and interim (3-month) efficacy and safety data from STELLA-LONG TERM, a long-term post-marketing surveillance study of ipragliflozin in Japanese patients with type 2 diabetes in real-world clinical practice.	Expert Opin Pharmacother. 17(15); 1985-1994, 2016	Original Article
31	Ugi S et al.	糖尿病内分泌内科	Evaluation of a Novel Glucose Area Under the Curve (AUC) Monitoring System: Comparison with the AUC by Continuous Glucose Monitoring.	Diabetes Metab J. 40 (4); 326-333, 2016	Original Article
32	Kuwagata S et al.	血液浄化部	MicroRNA148b-3p inhibits mTORC1-dependent apoptosis in diabetes by repressing TNFR2 in proximal tubular cells.	Kidney Int. 90 (6); 1211-1225, 2016	Original Article
33	Iwai T et al.	腎臓内科	Stearoyl-CoA Desaturase-1 Protects Cells against Lipotoxicity-Mediated Apoptosis in Proximal	Int J Mol Sci. 17(11); E1868, 2016	Original Article
34	Kume S et al.	腎臓内科	Hypothalamic AMP-Activated Protein Kinase Regulates Biphasic Insulin Secretion from Pancreatic β Cells during Fasting and in Type 2 Diabetes.	EBioMedicine. 168-180, 2016	Original Article

35	Uzu T et al.	腎臓内科、血液浄化部	Comparative Effects of Direct Renin Inhibitor and Angiotensin Receptor Blocker on Albuminuria in Hypertensive Patients with Type 2 Diabetes. A Randomized Controlled Trial.	PLoS One. 11 (12); e016493, 2016	Original Article
36	Ono S et al.	腎臓内科	O-linked β -N-acetylglucosamine modification of proteins is essential for foot process maturation and survival in podocytes.	Nephrol Dial Transplant. 2017	Original Article
37	Teramoto K et al.	腫瘍内科・腫瘍センター	Predictive biomarkers and effectiveness of MUC1-targeted dendritic-cell-based vaccine in patients with refractory non-small cell lung cancer.	Ther Adv Med Oncol. 9(3):147-157. 2017	Original Article
38	Sumimoto H et al.	腫瘍内科・腫瘍センター	RAS-Mitogen-Activated Protein Kinase Signal Is Required for Enhanced PD-L1 Expression in Human Lung Cancers.	PLoS One. 15;11(11) 2016	Original Article
39	Thang PM et al.	腫瘍内科・腫瘍センター	Cell division cycle associated 1 as a novel prognostic biomarker and therapeutic target for oral cancer.	Int J Oncol. 49(4):1385-93 2016	Original Article
40	Matsuo M et al.	精神科	Comparisons of Portable Sleep Monitors of Different Modalities: Potential as Naturalistic Sleep Recorders.	Neurol. 15;7:110, 2016.	Original Article
41	Kanemura T et al.	精神科	Evaluation of a portable two-channel electroencephalogram monitoring system to analyze sleep stages.	Journal of Oral Sleep Medicine. 2(2):101-108, 2016	Original Article
42	Fujimoto N et al.	皮膚科	Anti-MDA-5 antibody-positive bullous dermatomyositis with palmar papules complicating rapidly progressive interstitial lung disease.	Mod Rheumatol. 26(4):614-6. 2016	Case report
43	Takahashi T et al.	皮膚科	Familial Mediterranean fever with onset in the 70s showing various neutrophilic dermatosis.	1. J Eur Acad Dermatol Venereol. 96(2):276-8. 2016	Letter
44	Kabuto M et al.	皮膚科	Increase of interleukin-10-producing B cells associated with long-term remission after i.v. immunoglobulin treatment for	1. J Dermatol. 43(7):815-8. 2016	Case report
45	Takahashi T et al.	皮膚科	MRI-related thermal injury due to skin-to-skin contact.	Eur J Dermatol. 26(3):296-8. 2016	Case report
46	Kabuto M et al.	皮膚科	Anti-signal recognition particle antibody-positive polymyositis in a patient with Sjogren's syndrome showing various types annular erythema: Positive correlation between the activities of annular erythema and myositis.	1. J Dermatol. 43(8):958-61. 2016	Case report
47	Minami S et al.	皮膚科	A case of refractory eosinophilic fasciitis with eosinophilic vasculitis.	1. Eur J Dermatol. 26(3):319-20. 2016	Case report
48	Kabuto M et al.	皮膚科	Severe Buruli Ulcer Treated with Minimal Surgical Excision after Prior Biopsy Mapping.	Acta Derm Venereol. 96(7):982-984. 2016	Case report
49	Yoneta K et al.	皮膚科	Disseminated granulomatous skin lesions associated with myelodysplastic syndrome treated successfully with tranilast: a case report and review of the literature.	Eur J Dermatol. 26(4):398-400. 2016	Case report
50	Fujimoto N et al.	皮膚科	Intralymphatic histiocytosis comprises M2 macrophages in superficial dermal lymphatics with or without smooth muscles.	J Cutan Pathol. 43(10):898-902. 2016	Case report
51	Kato T et al.	皮膚科	Usefulness of Serum Procalcitonin for Early Discrimination Between Necrotizing Fasciitis and Cellulitis.	Acta Derm Venereol. 97(1):141-142. 2017	Original Article
52	Minami S et al.	皮膚科	A case of antisynthetase syndrome with elevated serum CA19-9 associated with interstitial lung disease.	Eur J Dermatol. 27(1):78-80. 2017	Original Article

53	Takahashi T et al.	皮膚科	Mutation analysis of IL36RN gene in Japanese patients with palmoplantar pustulosis.	J Dermatol. 44(1):80-83. 2017	Original Article
54	Takebayashi K et al.	消化器外科	Pyomyositis at the surgical site in a patient with chronic myeloid leukemia: a case report and literature review.	World Journal of Surgical Oncology(2016)14:116	Case report
55	Tuy HD et al.	消化器外科	ABCG2 expression in colorectal adenocarcinomas may predict resistance to irinotecan.	Oncol Lett. 2016 Oct;12(4):2752-2760. Epub 2016 Aug 3.	Original Article
56	Yamamoto H et al.	消化器外科	Perioperative Adiponectin Measurement is Useful for Prediction of Postoperative Infection in Patients with Colorectal Cancer.	Ann Surg Oncol. 2016 Aug;23(Suppl 4):540-545.	Original Article
57	Murata S et al.	消化器外科	Viable Cancer Cells in the Remnant Stomach are a Potential Source of Peritoneal Metastasis after Curative Distal Gastrectomy for Gastric Cancer.	Ann Surg Oncol. 2016 Sep;23(9):2920-7	Original Article
58	Vinh NQ et al.	消化器外科	Thermal tissue change induced by a microwave surgical instrument in a rat hepatectomy model.	Am J Surg. 2016 Jan;211(1):189-96.	Original Article
59	Umeda T et al.	乳腺・一般外科	Immunohistochemical analyses of CD44 variant isoforms in invasive micropapillary carcinoma of the breast: comparison with a concurrent conventional invasive carcinoma of no special type	Breast Cancer. 2016 Nov;23(6):869-875. Epub 2015 Oct 22.	Original Article
60	Kodama H et al.	消化器外科	Prognostic impact of CD44-positive cancer stem-like cells at the invasive front of gastric cancer.	Br J Cancer. 2017 Jan 17;116(2):186-194.	Original Article
61	Maehira H et al.	消化器外科	Lymphoepithelial cyst with sebaceous glands of the pancreas:	Surg Case Rep. 2016 Dec;2(1):98.	Case report
62	Kinoshita T et al.	心臓血管外科	Valve Phenotype and Risk Factors of Aortic Dilatation After Aortic Valve Replacement in Japanese Patients With Bicuspid Aortic Valve.	Circ J. 2016 May 25;80(6):1356-61.2016	Original Article
63	Kinoshita T et al.	心臓血管外科	Endothelial dysfunction of internal thoracic artery graft in patients with chronic kidney disease.	J Thorac Cardiovasc Surg. 2017 Feb;153(2):317-324.e1	Original Article
64	Asai T et al.	心臓血管外科	The direct aortic cannulation for acute type A aortic dissection.	Ann Cardiothorac Surg. 2016 Jul;5(4):401-3.	Review
65	Kawaguchi Y et al.	呼吸器外科	Clinical Efficacy of Afatinib Treatment for a Patient with Leptomeningeal Carcinomatosis.	Chemotherapy. DOI:10.1159/000454727, Accepted 2016 November	Original Article
66	Igarashi T et al.	呼吸器外科	Scoring of PD-L1 expression intensity on pulmonary adenocarcinomas and the correlations with clinicopathological factors.	ESMO Open. 2016; 1(4): e000083. Published online 2016 Aug 26. doi:10.1136/esmoopen-2016-000083	Original Article
67	Igarashi T et al.	呼吸器外科	Clinical outcome of posterior fixation surgery in patients with vertebral metastasis of lung cancer.	Molecular and Clinical Oncology. Published online Friday, March 17, 2017.doi:10.3892/mco.2017.1199	Original Article
68	Mori K et al.	整形外科	Giant balloon-like presacral schwannoma.	Spine J 16; e255-256, 2016.	Original Article
69	Mori K et al.	整形外科	Navigated Pin-Point Approach to Osteoid Osteoma Adjacent to Facet Joint of Spine.	Asian Spine J 10; 158-163, 2016.	Original Article
70	Mori K et al.	整形外科	Short-Term Clinical Result of Cortical Bone Trajectory Technique for the Treatment of Degenerative Lumbar Spondylolisthesis with More than 1-Year Follow-Up.	Asian Spine J 10; 238-244, 2016.	Original Article

71	Kodama N et al.	整形外科	Arthrodesis of the ankle using an anterior sliding tibial graft for osteoarthritis secondary to osteonecrosis of the talus: A comparison of vascularised non-vascularised grafts.	Bone Joint J 98-B; 359-364, 2016.	Original Article
72	Kumagai K et al.	整形外科	Activation of a chondrocyte volume-sensitive Cl ⁻ conductance prior to macroscopic cartilage lesion formation in the rabbit knee anterior cruciate ligament transection osteoarthritis model.	Osteoarthritis Cartilage 24; 1786-1794, 2016.	Others
73	Kumagai K et al.	整形外科	Total knee arthroplasty for treatment of osteoarthritis with prolonged patellar dislocation.	Arthroplast Today 3; 25-28, 2016.	Case report
74	Maeda T et al.	整形外科	Lidocaine induced ROCK-dependent membrane blebbing and subsequent cell death in rabbit articular chondrocytes	J Orthop Res 34; 754-762, 2016.	Original Article
75	Aoki T et al.	脳神経外科	Preemptive Medicine for Cerebral Aneurysms.	Neurol Med Chir (Tokyo) 56:552-568, 2016	Review
76	Nitta N et al.	脳神経外科	mTORC1 signaling in primary central nervous system lymphoma.	Surg Neurol Int 7(Suppl17):S475-480, 2016	Original Article
77	Shimizu T et al.	耳鼻咽喉科	Past, present and future of macrolide therapy for chronic rhinosinusitis in japan.	Auris Nasus Larynx 43, 131-136, 2016	Review
78	Tojima I et al.	耳鼻咽喉科	Group 2 innate lymphoid cells are increased in nasal polyps in patients with eosinophilic chronic rhinosinusitis.	Clinical Immunology 170, 1-8, 2016	Original Article
79	kato T et al.	耳鼻咽喉科	The effect of calprotectin on TSLP and IL-25 production from airway epithelial cells.	Allergology International, 1-9, 2016	Original Article
80	Takezawa K et al.	耳鼻咽喉科	Epidermal growth factor receptor inhibitor AG1478 inhibits mucus hypersecretion in airway epithelium.	American Journal of Rhinology & Allergy Vol.30, No.1, e1-e6, January-February 2016	Original Article
81	Kouzaki H et al.	耳鼻咽喉科	Epithelial Cell-Derived Cytokines Contribute to the pathophysiology of Eosinophilic Chronic Rhinosinusitis.	Journal of Interferon & Cytokine Research 36(3) 169-179, March 2016	Original Article
82	Ono T et al.	産科学婦人科学講座	Comparative analysis of cesarean section rates using Robson Ten-Group Classification System and Lorenz curve in the main institutions in Japan.	The journal of obstetrics and gynaecology research 42(10):1279-1285, 2016	Original Article
83	Yamanaka A et al.	女性診療科	Dysfunctional coagulation and fibrinolysis systems due to adenomyosis is a possible cause of thrombosis and menorrhagia.	European journal of obstetrics & gynecology and reproductive biology 204:99-103, 2016	Original Article
84	Kishida K et al.	母子・女性診療科	Individual differences in the distribution of sperm acrosome-associated 1 proteins among male patients of infertile couples; their possible impact on outcomes of conventional in vitro fertilization.	Zygote 24(5):654-61, 2016	Original Article
85	Katsura D et al.	母子診療科	Fetal Right Ventricular Diverticulum Detected by Prenatal Ultrasound Screening.	Case reports in obstetrics and gynecology 2016(1):1-4	Case report
86	Katsura D et al.	母子診療科	Long-term Follow-up of a Patient with Repeated Pneumothorax during Pregnancy and a History of Catamenial Pneumothorax: A Case Report.	Critical Care Obstetrics and Gynecology 2(5):27, 2016	Case report
87	Kim CJ et al.	泌尿器科	Akt-dependent activation of Erk by cyclin D1b contributes to cell invasiveness and tumorigenicity.	Oncol Lett 12(6):4850-4856,2016	Original Article
88	Higashiyama T et al.	眼科	Optical Coherence Tomography Angiography in a Patient with Optic Atrophy After Non-arteritic Anterior Ischaemic Optic	Neuro-Ophthalmology 40:146-149,2016	Case report

89	Higashiyama T et al	眼科	Optical Coherence Tomography Angiography of Retinal Perfusion in Chiasmal Compression	Ophthalmic Surg Lasers Imaging Retina 47;724-729,2016	Original Article
90	Higashiyama T et al	眼科	Relationship between magnetic resonance imaging signal intensity and volume of extraocular muscles in thyroid-associated ophthalmopathy with methylprednisolone pulse therapy.	Clin Ophthalmol 20;721-729,2016	Original Article
91	Higashiyama T et al	眼科	Usefulness of intravitreal bevacizumab for retinopathy of prematurity with severe dilated tunica vasculosa lentis and poor	Case Reports in Ophthalmol 8;173-179,2017	Case report
92	Higashiyama T et al	眼科	Optical coherence tomography angiography in eyes with good visual acuity recovery after treatment for optic neuritis.	PloS One 12:e0172168,2017	Original Article
93	Ichiyama Y et al.	眼科	Photoreceptor outer segment length and outer foveal thickness as factors associated with visual outcome after vitrectomy for vitreomacular traction syndrome.	Retina 36;1707-1712,2016	Original Article
94	Ichiyama Y et al.	眼科	Capillary Dropout at the Retinal Nerve Fiber Layer Defect in Glaucoma: An Optical Coherence Tomography Angiography Study	J Glaucoma 2016 Sep 2. [Epub ahead of print]	Case report
95	Ichiyama Y et al.	眼科	The possible mechanisms of subretinal fluid resolution after vitrectomy.	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 254;1445,2016	Letter
96	Ichiyama Y et al.	眼科	The effectiveness of vitrectomy for diffuse diabetic macular edema may depend on its preoperative optical coherence tomography pattern.	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 254;1545-1551,2016	Original Article
97	Ichiyama Y et al.	眼科	Optical coherence tomography angiography reveals blood flow in choroidal neovascular membrane in remission phase of neovascular age-related macular degeneration.	Retina 2017 Feb 28. [Epub ahead of print]	Original Article
98	Muraki S et al.	眼科	Novel mutations in the L visual pigment gene found in Japanese men with protan color-vision defect having a normal order L/M gene array.	Ophthalmic Genet 37;471-472,2016	Letter
99	Obata S et al.	眼科	Changes in Retinal Thickness after Vitrectomy for Epiretinal Membrane with and without Internal Limiting Membrane Peeling.	Ophthalmic Res 57;135-140,2016	Original Article
100	Ohji M et al.	眼科	Unexpected complications related to tamponade after vitrectomy.	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 254;1463-1464,2016	Others
101	Saishin Y et al.	眼科	Comparison between ranibizumab and aflibercept for macular edema associated with central retinal vein occlusion.	Jpn J Ophthalmol 61;67-73,2017	Original Article
102	Sawada O et al.	眼科	Retinal Vein Occlusion.	Dev Ophthalmol 55;147-153,2016	Review
103	Imashuku Y et al,	麻酔科	Hyperkalemia caused by rapid red cell transfusion and the potassium absorption filter.	Saudi J Anaesth 11; 114-116, 2017.	Case report
104	Imashuku Y et al,	麻酔科	Emergency surgery for RhD-negative patients in the Asia region.	J Clin Anesth 34; 375, 2016.	Case report
105	Imashuku Y et al,	麻酔科	Endotracheal intubation training for clinical trainees in Japan-is the anesthesiology training not necessary?	J Clin Anesth 31; 34, 2016.	Letter
106	Kojima A et al.	麻酔科	Serum albumin attenuates the open-channel blocking effects of propofol on the human Kv1.5	Eur J Pharmacol 783; 117-126, 2016.	Original Article
107	Murakami Y et al.	放射線科	Data set for renal sinus fat volume and visceral adipose tissue volume on computed tomography.	Data Brief. 19(7) ; 1658-1664, 2016 Apr 19.	Original Article

108	Otani H et al.	放射線部	Smoking-related interstitial fibrosis combined with pulmonary emphysema: computed tomography-pathologic correlative study using lobectomy specimens.	Int J Chron Obstruct Pulmon Dis. 11(1); 1521-1532, 2016 Jul 4.	Original Article
109	Sonoda A et al.	放射線科	A novel blood-pooling MR contrast agent: Carboxymethyl-diethylaminoethyl dextran	Mol Med Rep. 14(6); 5195-5198, 2016 Dec; Epub 2016 Oct 21.	Original Article
110	Inoue A et al.	放射線科	MRI can be used to assess advanced T-stage colon carcinoma as well as rectal carcinoma	Jpn J Radiol. 34(12); 809-819, 2016 Dec; Epub 2016 Oct 18.	Original Article
111	Miyata K et al.	放射線部	A Phantom study for ground glass nodule detectability using chest digital tomosynthesis with iterative reconstruction algorithm by ten observers: association with radiation dose and nodular characteristics	Br J Radiol. 90(1071); 20160555, 2017 Mar; Epub 2017 Feb 17.	Original Article
112	Isono T et al.	実験実習支援センター	Hydroxyl-HIF2-alpha is potential therapeutic target for renal cell carcinomas.	Am J Cancer Res. 2016; 6(10):2263-2276.	Original Article
113	Chano T et al.	臨床検査医学講座	Tumour-specific metabolic adaptation to acidosis is coupled to epigenetic stability in osteosarcoma cells.	Am J Cancer Res. 2016; 6(4):859-875.	Original Article
114	Isono T et al.	実験実習機器センター	Therapeutic inhibition of mitochondrial function induces cell death in starvation-resistant renal cell carcinomas.	Sci Rep. 2016 May 9; 6:25669.	Original Article
115	Takagi A et al.	腎臓内科	Mammalian autophagy is essential for hepatic and renal ketogenesis during starvation.	Sci Rep. 2016 Jan 6;6:18944.	Original Article
116	Takemura Y et al.	栄養治療部	Energy metabolism and nutritional status in hospitalized patients with lung cancer.	J. Clin. Biochem. Nutr. 59:122-129	Original Article
117	Hira D. et al.	薬剤部	Problems of elderly patients on inhalation therapy: Difference in problem recognition between patients and medical professionals.	Allergol. Int. 65 (4); 444-449, 2016.	Original Article
118	Ikeda Y. et al.	薬剤部	Cholesterol attenuates cytoprotective effects of phosphatidylcholine against bile salts.	Sci. Rep. 7; 306, 1-13, 2017.	Original Article
119	Sonoda Y et al	リハビリテーション部	Comprehensive geriatric assessment of effects of hospitalization and long-term rehabilitation of patients following lower extremity arthroplasty.	J Phys Ther Sci;2016 Apr;28(4):1178-87.	Original Article
120	Sonoda Y et al	リハビリテーション部	Use of a shoulder abduction brace after arthroscopic rotator cuff repair: A study on gait performance and falls.	Prosthet Orthot Int; doi: 10.1177/0309364617695882.	Original Article
121	Sakai T et al.	小児科	Prolonged respiratory disorder predicts adverse prognosis in infants with end-stage kidney disease.	Pediatric Nephrology 31:2127-2136, 2016	Original Article
122	Okano J et al.	形成外科	Hyperglycemia Induces Skin Barrier Dysfunctions with Impairment of Epidermal Integrity in Non-Wounded Skin of Type 1 Diabetic Mice.	Plos One.2016;11(11),e0166215	Original Article

計 15件
合計122件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名	Others
1	大野聖子	循環器内科	心筋症における心臓突然死を予測する	心臓突然死の先制医療 (in press) 医学のあゆみ 258 巻7-8号 Page779-783(2016.08)	Others
2	林秀樹 ほか	循環器内科	滋賀医科大学附属病院におけるアミオダロンによる間質性肺炎.	第20回アミオダロン研究会講演集 PROGRESS IN MEDICINE 36: 439-442, 2016	Original Article
3	和田悠子 ほか	循環器内科	不整脈原性右室心筋症.	Heart View vol.20(2) 48-56. 2016 20巻2号 Page142-150(2016.02)	Others
4	髙本 尚慶 ほか	循環器内科	血中BNP値やNT-proBNP値を用いた心不全診療の留意点.	循環plus. 17: 10-12. 2016	Others
5	芦原貴司	循環器内科	連載「モデル解析の交差点」:第1回「スパイラルリエントリーとそのコアに迫る話」.	心電図 2016;36(2):131-136.	Others
6	芦原貴司	循環器内科	連載「モデル解析の交差点」:第2回「スパイラルリエントリーの局所電位波形に迫る話」.	心電図 2016;36(3):225-231.	Others
7	中野恭幸	呼吸器内科	CT画像と機能の関係.	CT検診学会誌. 23(4):6-11, 2016.	
8	長尾大志	呼吸器内科	掲示板: はじめてのアクティブラーニング体験記.	医学教育: 47(5): 314-315, 2016.	Others
9	杉本光繁 ほか	光学医療診療部	高用量PPI投与をベースとしたシタフロキサシン/メトロニダゾール療法の有用性	日本ヘリコバクター学会誌; 17: 12-17; 2016	Original Article
10	馬場重樹 ほか	消化器・血液内科	血球成分除去療法の臨床寛解予測因子に関する検討	日本アフェレシス学会雑誌; 35: 98-100; 2016	Original Article
11	谷真至	消化器外科	肝胆膵高難度外科手術(5)膵切除	肝胆膵高難度外科手術	Others
12	山本 寛 ほか	消化器外科	【肥満手術が代謝に及ぼす影響】ブドウ糖負荷に対する糖代謝ホルモン動態の消化管の部位による違い(原著論文/特集)	外科と代謝・栄養 (0389-5564)50巻4号 Page199-204(2016.08)	Original Article
13	生田 大二 ほか	消化器外科	mapping biopsyで適切な肛門皮膚切除範囲が決定できたPagetoid spreadを伴う肛門管癌の2例(原著論文/症例報告)	日本大腸肛門病学会雑誌 (0047-1801)69巻8号 Page441-447(2016.08)	Case report
14	植木 智之 ほか	消化器外科	腹腔鏡手術を施行した直腸S状部子宮内膜症の1例	日本外科系連合学会誌 (0385-7883)42巻1号 Page78-84(2017.02)	Case report
15	三宅 亨 ほか	消化器外科	前診断しえた成人回腸非交通型重複腸管に対し腹腔鏡補助下に切除した1例:術前診断しえた成人回腸非交通型重複腸管に対し腹腔鏡補助下に切除した1例	日本内視鏡外科学会雑誌 (1344-6703)22巻1号 Page101-107(2017.01)	Case report
16	清水智治 ほか	消化器外科	肺血症診断におけるエンドキシンとプロカルシトニンの臨床意義	日本外科感染症学会雑誌 14(2): 101-110.2017	Review
17	生田 大二 ほか	消化器外科	mapping biopsyで適切な肛門皮膚切除範囲が決定できたPagetoid spreadを伴う肛門管癌の2例	日本大腸肛門病学会雑誌 (0047-1801)69巻8号 Page441-447(2016.08)	
18	坂井 幸子 ほか	乳腺一般外科	創傷被覆保護材を用いて臍帯を上皮化しcomponents separation techniqueにて腹壁閉鎖を行った巨大臍帯ヘルニアの1例(原著論文/症例報告)	日本小児外科学会雑誌 (0288-609X)52巻4号 Page970-976(2016.06)	Case report
19	久保 充彦 ほか	整形外科	人工膝関節置換術々後関節可動域が患者満足度へ与える影響	日本人工関節学会誌 46; 315-316, 2016.	Original Article
20	久保 充彦 ほか	整形外科	インサートの違いによるTKAのkinematics変化	日本人工関節学会誌 46; 279-280, 2016.	Original Article
21	久保 充彦 ほか	整形外科	外反膝に対する人工膝関節全置換術における外側アプローチの工夫 外側支帯形成	中部整災誌 59; 753-754, 2016.	Original Article
22	久保 充彦 ほか	整形外科	特発性大腿骨内側顆骨壊死に対する手術療法 TKA, UKA, HTO, Mosaicplastyの臨床成績と患者満足度	JOSKAS 41; 1015-1019, 2016.	Original Article
23	三村 朋大 ほか	整形外科	当院における施設内骨バンクと同種骨移植の運用状況	日本人工関節学会誌 46; 107-108, 2016.	Original Article

24	前田 勉 ほか	整形外科	85歳以上の超高齢者における人工膝関節全置換術の術後機能回復と患者満足度	日本人工関節学会誌 46; 59-60, 2016.	Original Article
25	河野浩人 ほか	脳神経外科	内頸動脈内膜剥離術施行後に感染性眼内炎を手術反対側に生じた一	脳卒中の外科44:395-400、2016	Case report
26	辻篤司 ほか	脳神経外科	脳神経外科領域における抗血栓薬の取り扱いの実際	日本腹部救急医学会雑誌 36:877-882、2016	Review
27	松井宏樹 ほか	脳神経外科	椎骨動脈解離性動脈瘤のトラッピング術後、対側椎骨動脈に新たに解離を生じた一例	脳卒中の外科44:390-394、2016	Case report
28	辻篤司 ほか	脳神経外科	ARUBA study後の脳動脈奇形の治療	脳神経外科44:269-281、2016 Neurological Surgery 44巻4号 Page269-281(2016.04)	Review
29	野崎和彦	脳神経外科	脳卒中治療のメインストリーム	滋賀医学38:2-5、2016	Others
30	岩崎圭亮	眼科	IgG4関連疾患が原因と考えられた外転神経麻痺の一例	眼科臨床紀要 9:894-898,2016	Case report
31	澤田修	眼科	薬剤師が知っておくべき臓器別画像解析の基礎知識 眼科分野 糖尿病網膜症の画像診断	医薬ジャーナル 52:5-10,2016 52巻9号 Page1999-2004(2016.09)	Others
32	澤田智子	眼科	薬剤師が知っておくべき臓器別画像解析の基礎知識 眼科分野 加齢黄斑変性の画像診断	医薬ジャーナル 52:5-9,2016 52巻7号 Page1595-1599(2016.07)	Others
33	東山智明	眼科	薬剤師が知っておくべき臓器別画像解析の基礎知識 眼科分野 甲状腺眼症の画像診断	医薬ジャーナル 52:1389-1391,2016	Others
34	東山智明	眼科	甲状腺眼症	あたらしい眼科 33:1687-1693,2016	Others
35	東山智明	眼科	【斜視治療アップデート】 外斜視に対する手術治療	眼科 58:245-250,2016	Others
36	南真弓	眼科	UBM所見を得ることができた全身異常を伴わない水晶体偏位の1例	眼科臨床紀要 9:592-596,2016	Case report
37	南川貴之	眼科	薬剤師が知っておくべき臓器別画像解析の基礎知識 眼科分野 緑内障の画像診断	医薬ジャーナル 52:1797-1801,2016	Others
38	村木早苗	眼科	小児疾患診療のための病態生理3-改訂第5版- 先天性覚異常	小児内科 48; 1070-1074,2016	Others
39	村木早苗	眼科	小児眼科Q&A 外転神経麻痺に対する手術を教えてください	あたらしい眼科 33:138-140,2016	Others
40	西田保裕	医師臨床教育センター	斜視のアップデート わかりやすい臨床講座 非共同性斜視の画像診断	日本の眼科 87; 1324-1328,2016	Others
41	佐田蓉子	麻酔科	低出生体重児の挿管困難に上部消化管内視鏡が有用であった1症例	麻酔 第65巻第11号, S1173~1175, 2016.	Case report
42	小嶋亜希子	麻酔科	麻酔薬の心筋イオンチャネルの制御機構に関わる分子基盤の解明	麻酔 第65巻増刊号, S143-S154, 2016.	Others
43	福井 聖	ペインクリニック科	慢性痛における脳の変化:形態変化(VBM)とMRSの最新知識	ペインクリニック 38巻7号 Page905-919(2017.07)	Others
44	安達 友紀	ペインクリニック科	慢性疼痛患者との初回面接—私の場合—	ペインクリニック 38巻3号 Page299-307(2017.03)	Others
45	渡邊裕加	歯科口腔外科	口腔扁平上皮癌に対するTS-1+Nedaplatin (CDGP)併用化学療法の有効性と安全性に関する臨床的	滋賀県歯科医師会雑誌・4・6-9・2016	Original Article
46	平田智子	歯科口腔外科	滋賀医科大学医学部附属病院における歯科インプラント新来患者の臨床統計学的検討	滋賀県歯科医師会雑誌・4・14-17・2016	Original Article
47	稲葉有希	歯科口腔外科	特発性血小板減少性紫斑病患者に対し、 γ -グロブリン大量療法施行後に抜歯を行った1例	滋賀医科大学雑誌・29(1)・36-39・2016	Case report
48	野井将大	歯科口腔外科	口蓋粘膜小腫瘍を契機に発見された腎細胞癌の1例	日本口腔外科学会雑誌・62-2・62-66・2016	Case report
49	西村さゆみ	栄養治療部	多施設共同研究による粘度可変型流動食マーメッド®の有用性に関する検討	日本静脈経腸栄養学会雑誌31巻6号 Page1270-1273(2016.11)	Original Article
50	原田佳典	リハビリテーション部	脳腫瘍のクライアントと作業療法士の治療的関係に関する文献研究	学術誌「作業療法」;2016年35巻第2号 Page123-137(2016.04)	Original Article
51	岩井宏治	リハビリテーション部	COPD合併の有無による心大血管疾患患者の術後無気肺、在院日数、運動耐容能の比較	心臓;49巻3号, 2017 Page240-247	Original Article
52	田川晃司 ほか	小児科	川崎病回復期に著明な心膜液貯留をきたした2例	日本小児科学会雑誌,120巻8号,pp1227-1233,2016	Case report

53	田川晃司 ほか	小児科	髄膜炎を伴った劇症型A群溶血性レンサ球菌感染症の1例	小児感染免疫,28巻2号,pp91-97,2016	Case report
54					

計 1件
合計 53件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準拠すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 「滋賀医科大学における人を対象とする医学系研究に係る標準業務手順書」 「安全性情報の取り扱い手順書」 「臨床研究のモニタリングに関する標準業務手順書」 「臨床研究の監査の実施に関する手順書」	
③ 倫理審査委員会の開催状況 平成28年4月26日、5月24日、7月26日、8月30日、9月27日、 10月25日、11月22日、12月20日、平成29年1月31日、2月28日、 3月28日	年11回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 滋賀医科大学利益相反マネジメント規程において、利益相反マネジメントの対象、利益相反マネジメント部会の設置、アドバイザーの設置及び職員等の責務等を定めている。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年19回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年7回
<p>・研修の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none">・研究倫理を考えるーその歴史と被験者保護ー・人を対象とする医学系研究関連規制についてー倫理指針・ヒトゲノム指針ー・利益相反管理／国会での「臨床研究法案」をめぐる議論の動向・オーストラリア主導の大規模臨床試験で学んだこと・臨床疫学研究における研究デザインと統計解析・質的調査の目的とその実践：社会科学の視点と看護の視点の違いから・バイオバンクジャパンミニ講演会改正倫理指針とバイオバンクジャパンでの対応 <p>セミナー参加延べ人数 735人、認定者数 781人 (e-Learning受講者も含む)</p>	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

<ul style="list-style-type: none">・ 卒後3年目から7年目の医師を対象とし、実践的で高い臨床能力を持ち、倫理性・科学性に富む専門医の育成を目標としている。・ プログラムコースは各診療科により若干異なるが、卒後3年目を滋賀医科大学医学部附属病院で研修した後、市中関連病院に1ないし2年間出向のあと、滋賀医科大学に戻る、あるいは更に別の関連病院に1～2年勤務後に戻るといったコース編成となっている。・ 大学院社会人入学コースを用意している。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	53人
-------------	-----

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
堀江 稔	循環器内科	教授、診療科長	34年	
中野 恭幸	呼吸器内科	准教授、診療科長	19年	
安藤 朗	消化器内科	教授、診療科長	26年	
木藤 克之	血液内科	病院教授、診療科長	22年	
前川 聡	糖尿病内分泌内科	教授、診療科長	30年	
荒木 信一	腎臓内科	准教授、診療科長	22年	
漆谷 真	神経内科	教授、診療科長	22年	
谷 眞至	消化器外科	教授、診療科長	28年	
清水 智治	乳腺・一般外科	准教授、診療科長	23年	
浅井 徹	心臓血管外科	教授、診療科長	26年	
花岡 淳	呼吸器外科	講師、診療科長	21年	
北川 裕利	麻酔科	教授、診療科長	25年	
丸尾 良浩	小児科	教授、診療科長	26年	
今井 晋二	整形外科	教授、診療科長	23年	
野崎 和彦	脳神経外科	教授、診療科長	27年	
村上 節	産婦人科	教授、診療科長	28年	
清水 猛史	耳鼻咽喉科	教授、診療科長	30年	
大路 正人	眼科	教授、診療科長	30年	
栗山 健一	精神科	准教授、診療科長	13年	
田中 俊宏	皮膚科	教授、診療科長	32年	
河内 明宏	泌尿器科	教授、診療科長	28年	
村田 喜代史	放射線科	教授、診療科長	33年	

九嶋 亮治	検査部、病理診断科	教授、診療科長	27年	
江口 豊	救急科、集中治療部	教授、診療科長	27年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

経腸栄養の選択方法、胃瘻・腸瘻の管理、老嚥について、がん患者の栄養管理、静脈栄養・経腸栄養のリスク管理

・研修の期間・実施回数

(H28) 5/12 8/25 11/24 各1時間 計3回

・研修の参加人数

5/12-76名 8/25-67名 11/24-75名

・研修の主な内容

薬剤（麻薬・抗がん剤・インスリン・血液製剤等）、輸液管理、12誘導心電図・心電図モニター管理、人工呼吸器管理、急変時対応等について

・研修の期間・実施回数

平成28年度 13回実施

・研修の参加人数

44名

・研修の主な内容

薬剤師を対象に、がん薬物療法についての高度な知識・技術を習得するために「がん専門薬剤師研修」を行った。

・研修の期間・実施回数

1年間（2016年4月18日～2017年3月13日）、週1回1時間。

・研修の参加人数

1人

・研修の主な内容

薬剤師を対象に、緩和ケア及び栄養管理に関する高度な知識・技能を習得するために卒後の実務研修を実施した。

・研修の期間・実施回数

1年間（2016年4月21日～2017年3月24日）、週2日/回、合計20回。

・研修の参加人数

33人

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

衛生管理、栄養スクリーニングとアセスメント、エネルギー・たんぱく質・水分必要量の算出、栄養管理法の特徴とその選択、静脈栄養、経腸栄養、食物アレルギー、消化器疾患、糖尿病、摂食嚥下、消化器がん、精神科疾患、褥瘡、心疾患、脳血管疾患、救急疾患、

小児科疾患、腎疾患、呼吸器疾患

・研修の期間・実施回数、 ・研修の参加人数

衛生管理：2月6日、8日 2回 参加人数計36名

上記以外：5月26日、6月9日・23日、7月14日・28日、9月8日、10月27日、11月10日、12月1日・8日・22日、1月12日・26日、3月16日・23日・30日 参加人数各10名から13名

・研修の主な内容

薬剤師を対象に、糖尿病薬に関する最新の知識、電子医薬品集・iPic（医薬品情報Webページ）の使用方法、疑義照会・プレアボイド報告、及び妊婦・授乳婦カウンセリングについて講義、研修を実施した。

・研修の期間・実施回数

2016年4月16日～6月27日、週1回1時間

・研修の参加人数

延べ85名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2) 現状
管理責任者氏名	病院長 松末 吉隆
管理担当者氏名	副病院長 (経営・事務総括担当) 國友 陵一

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	医療サービス課 (診療情報管理室) 薬剤部 放射線部	紙カルテによる診療録等の病歴資料は、外来・入院別に1患者1ファイル方式によって永久一元番号で分類している。入院診療録は①退院日から10年間は現物保管、②退院日から10年を経過したものは光ファイリングののち廃棄している。また、外来診療録は①最終受診日から10年間は現物保管、②最終受診日から10年を経過し、入院歴のあるものは光ファイリングののち廃棄、③入院歴のないものはそのまま廃棄している。 診療録の院外持ち出しは、特別な場合を除き原則禁止。持ち出す場合は病歴部長および病院長の承認が必要。 エックス線写真は、マンモグラフィのみフィルム保管を原則としている。来院日より5年を過ぎたものは、一般撮影に関しては平成18年3月以降分をデジタル化、アンギオに関しては平成22年12月からフィルムレス化を実施している。 平成22年7月よりは電子カルテ化されており、入外共に永久保存されている。
		各科診療日誌		
		処方せん		
		手術記録		
		看護記録		
		検査所見記録		
		エックス線写真		
		紹介状		
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		
		病院の管理及び運営に関する諸記録		
高度の医療の提供の実績	病院管理課			
高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院管理課			
高度の医療の研修の実績	病院管理課			
閲覧実績	総務課			
紹介患者に対する医療提供の実績	医療サービス課			
入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医療サービス課及び薬剤部			
第一規則	医療に係る安全管理のための指針の整備状況		医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための委	医療安全管理部		

	員会の開催状況		
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	病歴部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	病歴部
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	手術部、放射線部、光学医療診療部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療サービス課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	病院管理課
		職員研修の実施状況	医療安全管理部
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	<input checked="" type="radio"/> 2. 現状	
閲覧責任者氏名	山木 宏明		
閲覧担当者氏名	水上 裕美		
閲覧の求めに応じる場所	管理棟2階 総務課内 情報公開室		
閲覧の手続の概要 開示請求者から「法人文書開示請求書」の提出後、「情報公開・個人情報保護審査委員会」での審議の上、開示等を決定する。			

(注) 既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0 件
閲覧者別	医 師	延	0 件
	歯 科 医 師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 指針の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1) 医療安全管理に関する基本的な考え方2) 医療安全管理のための委員会その他組織に関する基本的事項3) 医療安全管理のための職員研修に関する基本方針4) 報告等にもとづく医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針5) 医療事故等重大なインシデント発生時の対応に関する基本方針6) 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針7) 患者からの相談への対応に関する基本指針8) その他医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 設置の有無 (有・無)・ 開催状況：年12回・ 活動の主な内容：<ol style="list-style-type: none">(1) 医療安全管理の企画立案に関すること。(2) インシデント等の状況の分析に関すること。(3) 全死亡例に関すること。(4) 高難度新規医療技術、未承認新規医薬品等を用いた医療の適否結果及び従事者の遵守状況に関すること。(5) 医療安全の確保に資する、診療状況の把握に関すること。(6) 医療安全管理に係る教育及び研修に関すること。(7) 医療安全管理指針の策定及び変更に関すること。(8) 医薬品、医療機器及び医用材料の安全使用に関すること。(9) 医薬品安全使用のための業務手順書の作成又は変更に関すること。(10) 院内で行われる、実習、研修など教育活動に伴う患者安全管理に関すること。(11) 医療安全マニュアルに関すること。(12) インシデントの公的機関への報告及び公表等に関すること。(13) 発生したインシデントの患者及び家族等への対応に関すること。(14) その他インシデント、医事紛争及び訴訟に関すること。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年13回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容： 講師を招聘しての講演会、院内講師による研修会、外部の研修会への参加等	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1) ニュース・レターの発行や院内ホームページへの掲載により、職員に周知している。2) 毎月の重要なインシデント及びその対策について、各部署リスクマネージャーが周知し、情報の共有化を図っている。3) 院内ラウンドによるチェックを行っている。4) リスクマネージャー会議を開催し、医療安全管理部での検討事項、具体的な改善計画等の情報を伝達している。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有 無
・ 指針の主な内容： 1) 院内感染対策に関する基本的な考え方 2) 院内感染対策のための委員会その他の組織に関する基本的事項 3) 院内感染対策のための職員研修に関する基本方針 4) 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5) 院内感染発生時の対応の基本方針 6) 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 7) その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
・ 活動の主な内容： 1) 感染予防対策の企画立案に関すること。 2) 院内感染対策のための指針の策定及び変更に関すること。 3) 感染予防対策マニュアルに関すること。 4) 感染予防対策に係る監視及び指導に関すること。 5) 感染予防対策に係る調査に関すること。 6) 感染予防対策に係る教育及び研修に関すること。 7) その他感染予防対策に関すること。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年15回
・ 研修の主な内容： 講師を招聘しての講演会、院内講師による研修会、外部の研修会への参加等	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1) ニュース・レターの発行や院内ホームページへの掲載及び学内メールにより、職員に周知している。 2) 感染制御部および感染対策チーム委員会において、感染症の発生状況と対策について検討し、各部署の感染リンクスタッフに周知し、情報の共有化を図っている。 3) 実施状況について院内ラウンドによるチェックを行っている。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年4回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">○H28.4.16 新人看護師を対象に、電子医薬品集、抗がん剤、麻薬、糖尿病薬、注射薬について講義を行った。(44名参加)○H28.6.16 看護師長を対象に、医薬品適正使用の最近の話題について講義を行った。(34名参加)○H28.6.22 院内医療従事者を対象に、診療報酬改定における薬剤関連のトピックス、及び薬剤部における処方チェックの状況等について講義を行った。(110名参加)○H28.3.2 院内医療従事者を対象に、未承認・適応外・禁忌等の医薬品の登録状況について講義を行った。(42名参加)	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有 無)</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <p>医薬品の採用、医薬品の購入、調剤室における医薬品の管理、病棟・各部門への医薬品の供給、外来患者への医薬品使用、病棟における医薬品の管理、入院患者への医薬品使用、麻薬の取扱い、治験薬の取扱い、特定生物由来製品の取扱い、要管理薬(向精神薬・血液製剤・覚醒剤原料)の取扱い、未承認・適応外・禁忌等に該当する医薬品の取扱い、医薬品情報の収集・管理・提供、抗がん剤の調剤および無菌調製、手術・麻酔部門、集中治療室(救急部門)、輸血・血液管理部門、画像診断部門、歯科領域、他施設との連携、事故発生時の対応、教育・研修、特に安全管理が必要な医薬品</p> <p>平成28年8月～9月に、院内各部署の担当医長・師長・薬剤師の3者で、手順書に基づく業務の実施状況の確認を行った。</p> <p>平成28年11月に手順書の改訂を行った。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有 無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">○医薬品安全管理副責任者4名(病棟、外来診療科、薬剤部、ハイケアユニット担当)を任命し、医薬品の使用状況の把握や安全性情報の伝達等を行っている。○緊急性を要する安全性情報や添付文書改訂情報は、随時、薬剤部から病院全職員にメール送信している。また、病棟薬剤師を通じ、該当医薬品を使用する医師や看護師等に直接情報を伝達し周知を行っている。特に全職員に周知が必要な情報は、月1回、紙ベースで回覧し、確認後、押印してもらい回収している。○医薬品情報に特化した院内医療従事者専用のWEBページを作成し、医薬品の採用削除、添付文書改訂、安全性情報及び回収情報等を閲覧できるようにしている。検索機能もあるため、過去情報の検索も可能である。○医薬品集電子版を電子カルテ全端末に配信している。医薬品添付文書情報だけでなく、添付文書改訂情報や薬剤部で作成した後発医薬品一覧、術前中止薬一覧等も掲載され、医師がオーダ一時に参照可能である。○厚労省に報告した副作用情報、未承認・適応外薬及び併用禁忌薬の処方状況等は、薬事委員会に報告し、安全使用のための改善策や院内への周知広報について協議を行っている。○抗凝固・抗血小板療法に関する院内ワーキンググループに手術部担当薬剤師が参加し、医薬品の安全使用の向上と情報の共有を図っている。○使用が承認された未承認等の医薬品の情報は、該当する病棟の担当薬剤師に連絡し、定期的に使用状況や有害作用の有無を確認し、必要なら是正を指導する。○併用禁忌薬は、電子カルテシステムで処方状況を把握し、薬剤部内リスクマネジメント会議において、使用状況や不適切な使用の有無を確認し、必要なら病棟薬剤師を通じて是正を指導する。○未承認等の医薬品に関する疑義照会記録はデータベース化し、必要時、検索・照会が可能である。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 6 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ○患者監視モニタ（安全管理） ○人工呼吸器（安全使用） ○除細動器（安全使用） ○輸液・シリンジポンプ（安全使用） ○血液透析装置（基礎研修） ○PCPS（基礎研修） 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 （有・無） ・ 保守点検の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ○人工呼吸器：メーカーによる定期点検と院内CE点検 ○輸液ポンプ・シリンジポンプ：メーカーによる定期点検とCE点検 ○除細動器等：出力チェッカーによる院内点検 ○放射線機器：メーカーによる定期点検と院内点検 ○保育器：メーカーによる定期点検と院内チェック ○人工心肺装置及び補助循環装置：メーカーによる定期点検と院内点検 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ○インターネット情報 医薬品医療機器統合機構メール配信 厚生労働省及び近畿厚生局ホームページ ○メーカーによる情報 各メーカーからの情報提供 ○臨床工学技士会ネット情報 ○未承認・未認証に該当する医療機器等の使用については、診療の質管理室に申請を上げ、未承認・未認証・未届・適応外・禁忌・禁止に該当する医療機器等安全使用登録書を提出。協議の上、要審査については、医療機器安全管理委員会にて審査し結果を診療の質管理室へ戻し協議判定を行う。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師）： 医師</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 医療安全管理責任者を副病院長（医療安全担当）とし、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（2名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 薬剤部薬品情報室で情報の収集・整理を行っている。また、iPic を用いて情報発信するとともに、毎月「クスリのリスクコミュニケーション」を発行し、回覧することにより周知している。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 適応外・禁忌医薬品・未承認医薬品等の使用について審査手順書を作成した。 平成 28 年 6 月より平成 29 年 3 月まで薬剤部が窓口となり、院内で使用経験のある未承認・適応外・禁忌等に該当する医薬品の使用届けを受け、薬剤部での事前審査及び薬事委員会での正審査を行った。</p> <p>・担当者の指名の有無（有・無）</p> <p>・担当者の所属・職種： （所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ）</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 （有・無）</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容： 同意書の有無、IC について内容の確認を行った。</p>	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 平成 28 年 5 月、平成 29 年 2 月に入院診療計画書、同意書、IC の記載について、各科の入院期間 1 週間以内、入院期間 2 週間以内、入院期間 1 ヶ月以内の任意に抽出した 3 症例について、監査を行い、結果を病歴部連絡協議会にて報告した。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（3）名、専任（0）名、兼任（9）名 うち医師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（3）名</p>	

うち薬剤師：専従（ 1 ）名、専任（ 0 ）名、兼任（ 0 ）名

うち看護師：専従（ 1 ）名、専任（ 0 ）名、兼任（ 1 ）名

（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

- (1) インシデント防止の推進に関する事。
- (2) インシデント発生時の調査及び分析に関する事。
- (3) インシデント等に関する事例、対策等の情報収集に関する事。
- (4) 全死亡例に関する、集計、分析、報告等に関する事。
- (5) 医療安全の確保に資する、診療状況の把握に関する事。
- (6) 医療安全管理委員会への情報提供及び改善策の提案に関する事。
- (7) 医療安全管理に関する教育、研修等の企画及び実施に関する事。
- (8) 医療安全に関する院内巡視、記録等の点検及び評価に関する事。
- (9) 医療安全マニュアルの作成に関する事。
- (10) 医療安全に関する広報・啓発活動に関する事。
- (11) リスクマネジャー会議・事例検討会等に関する事。
- (12) その他医療安全の推進に関する事。

・モニタリング内容：

- (1) 中心静脈穿刺時の合併症発生数
- (2) 影響レベル3 b以上の転倒転落数、転倒転落率

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有・無 ）

・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有・無 ）

・活動の主な内容：

各診療科より提出される申請内容を確認し、治療担当部門会議で適否について審議し、適否結果を各診療科等に通知する。

高難度新規医療技術等が適正な手続きに基づいて提供又は使用されていたかどうかに関し、診療録等の記載内容を確認し、また従事者の遵守状況の確認を行う。

高難度新規医療技術等の提供又は使用の適否等について決定したとき及び従事者の遵守状況を確認したときに、その内容について医療安全管理委員会に報告する。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有・無 ）

・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ 有・無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有・無 ）

・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有・無 ）

・活動の主な内容：

各診療科より提出される申請内容を確認し、担当部門会議で適否について審議し、適否結果を各診療科等に通知する。

未承認医薬品等が適正な手続きに基づいて提供又は使用されていたかどうかに関し、診療録等の記載内容を確認し、また従事者の遵守状況の確認を行う。

未承認医薬品等の提供又は使用の適否等について決定したとき及び従事者の遵守状況を確認したときに、その内容について医療安全管理委員会に報告する。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 無)
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (有 無)

⑨ 監査委員会の設置状況

有 無

・ 監査委員会の開催状況：年 1回

・ 活動の主な内容：

- (1) 医療に係る安全管理についての業務方法書及び規則等の整備状況に関すること。
- (2) 関係法令、業務方法書、規則等に基づく業務の実施状況に関すること。
- (3) 医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の行うべき業務の状況に関すること。
- (4) 医療安全管理部の体制及び業務の状況に関すること。
- (5) 医療安全管理委員会の業務の状況に関すること。
- (6) その他本院における医療安全管理体制に関すること。

・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 (有 無)

・ 委員名簿の公表の有無 (有 無)

・ 委員の選定理由の公表の有無 (有 無)

・ 公表の方法：

病院ホームページに掲載している。

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
松村 由美	京都大学	○	医療に係る安全管理に関する業務に従事している	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
佐和 貞治	京都府立医科大学		医療に係る安全管理に関する業務に従事している	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
平野 哲郎	立命館大学		法律学に関する専門知識に基づき教育・研究業務に従事している	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
西川 甫	滋賀県体育協会		医療を受ける者の立場から意見を述べるができる	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	2
山田 尚登	滋賀医科大学		大学の理事(教育・広報・渉外等担当)の立場で意見を述べる	<input checked="" type="radio"/> 有・無	3
小笠原 一誠	滋賀医科大学		大学の理事(研究・企画・評価等担当)の立場で意見を述べる	<input checked="" type="radio"/> 有・無	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1. に掲げる者を除く。)
3. その他

<p>⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 158 件 ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 81 件 ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容 医療安全管理委員会で周術期死亡、術後在院死亡の事例について報告し、必要に応じて事例検討会、事例調査検討委員会を開催し原因、対策等について検討している。また、関係部署でのM&Mカンファレンスの実施指導を行っている。
<p>⑪ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・他の特定機能病院等への立入り（<input checked="" type="radio"/>有（病院名：名古屋大学医学部附属病院）・無） ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（<input checked="" type="radio"/>有（病院名：愛媛大学医学部附属病院）・無） ・技術的助言の実施状況 名古屋大学医学部附属病院は平成29年10月20日、愛媛大学医学部附属病院は平成29年11月28日にそれぞれ予定している。
<p>⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・体制の確保状況 患者支援センター内に患者相談窓口を設置し、医療安全及び医療上のインシデントに関する相談については、医療安全管理者と連携して対応している。
<p>⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無） ・窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（<input checked="" type="radio"/>有・無） ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）
<p>⑭ 職員研修の実施状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の実施状況 平成28年5月13日実施：「患者確認の基礎」 平成28年7月20日実施：「確認すること 薬剤を中心に」 平成28年11月29日実施：「特定機能病院における承認条件の見直しについて」 平成29年1月11日実施：「インフォームド・コンセントについて」
<p>⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の実施状況 管理者は、平成29年1月28日開催の「国立大学附属病院長会議 第2回病院長塾～病院長の権限及び病院のガバナンス強化～」に参加した。

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・ 評価を行った機関名、評価を受けた時期 公益財団法人 日本医療機能評価機構	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・ 情報発信の方法、内容等の概要 附属病院HPにて、Q I (クオリティー・インディケーター) や本学の特色ある医療等のHPを開設し、公開している	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 緩和ケア 腫瘍内科、精神科、消化器内科、消化器外科、乳腺・一般外科、呼吸器外科、泌尿器科、放射線科、小児科、歯科口腔外科 感染対策 呼吸器内科、呼吸器外科、小児科、歯科口腔外科 栄養サポート 腎臓内科、消化器外科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科	